

平成 20 年度

弘前大学生涯学習教育研究センター年報  
第12号

平成 21 年 3 月

弘前大学生涯学習教育研究センター

# 目 次

---

挨拶 弘前大学生涯学習教育研究センター長 浅野 清

## I. 論文等

|                                                                              |    |
|------------------------------------------------------------------------------|----|
| 今後のキャリア教育と大学開放を展望して<br>..... 弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授 藤田 昇 治.....                | 1  |
| 研究ノート<br>鉄道唱歌と津軽..... 弘前大学教育学部 教授 吉田 孝.....                                  | 13 |
| 今、若者に必要なこと<br>～高大連携によりキャリア形成を支援しよう～<br>..... 青森県教育庁生涯学習課 学校地域連携推進監 坂本 徹..... | 23 |

## II. 事業報告

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 1. 生涯学習教育研究センター主催・共催事業          |    |
| (1) 公開講座.....                   | 35 |
| (2) 講演会・セミナー等.....              | 38 |
| (3) 受託事業.....                   | 40 |
| (4) 研修等.....                    | 41 |
| (5) ホームページ On-Line 公開講座 .....   | 42 |
| 2. 学部・大学院等の主催事業など               |    |
| (1) 人文学部.....                   | 45 |
| (2) 教育学部.....                   | 46 |
| (3) 大学院医学研究科.....               | 48 |
| (4) 大学院保健学研究科.....              | 49 |
| (5) 医学部附属病院.....                | 53 |
| (6) 大学院理工学研究科.....              | 55 |
| (7) 農学生命科学部・附属生物共生教育研究センター..... | 56 |
| (8) 附属図書館.....                  | 58 |
| (9) 遺伝子実験施設.....                | 58 |
| (10) 総合情報処理センター.....            | 59 |

## III. センター関連規則など

|                  |    |
|------------------|----|
| 1. センター関連規則..... | 61 |
| 2. 機構・組織.....    | 65 |
| 3. 地図・連絡先.....   | 66 |

編集後記

## 発刊にあたって

弘前大学生涯学習教育研究センター長

浅 野 清

大変遅れてしまいましたが、本日ここに弘前大学生涯学習教育研究センターの平成20年度年報を発刊する運びとなりました。これもひとえに日頃より当センターの活動にご協力いただいている皆様のお陰と感謝いたしております。

本年は、例年行っている自治体との共催による公開講座やセンター主催講演会、キャリアアップ講座、On-Line 公開講座などに加え、「日本のうたを歌おう」という新たな事業も実施することができました。この講座では童謡や唱歌の歴史を学び、同時に発声に関する専門的な指導を受けながら、参加者全員でうたうというものです。美しい日本語の歌詞もさることながら、旋律が持っている心を癒す力に改めて感動をおぼえました。今後とも是非継続して開催したいと考えています。講座を担当した講師の一人、吉田孝（元教育学部教授）先生による論文が本報告書に掲載されています。ご一読いただければ幸いです。

平成16年に医学部よりセンターに移ってこられ、On-Line 講座の開設、健康に関する著書を出版するなど、センター事業に新しい流れを作って頂いた菅世智子先生が平成21年3月末日をもって定年退職を迎えることになりました。医学全般に関わる豊富な知識と優しいお人柄で大学と地域を結ぶ役割を果たしてくれました。先生の5年に渡るご尽力に対し、紙面を借りてここに御礼申し上げます。

アメリカ金融・経済の落ち込みについて初めて報道された時には驚きはしたものの、対岸の火事のように見ていました。しかしその影響は日ごとに世界中へと広がっていききました。社会的な不安が日本でも見られるようになった今、センターの事業内容や提供方法も変わらなければならなくなるかもしれません。センターとしては、センターが存続する限り、地域の皆様の声を聞き、社会に求められる事業内容を精査する努力を惜しまない所存です。何卒、変わらぬ御協力、御指導のほど、宜しく願い申し上げます。

平成22年3月

# I. 論 文 等

# 今後のキャリア教育と大学開放を展望して

藤 田 昇 治

## I. はじめに

社会教育や生涯学習について論じられるとき、これまで「労働力能の形成」ということは比較的少なかったように思う。それは、様々なレベルでの問題に規定されていることであるが、改めて「人間としての成長発達」を考えた場合、基本的な課題の一つとして位置づけられるべきことである。佐藤一子は「市民的社会的な教育、継続的な教育、労働と職業に関連する教育の三つの分野を架橋する『社会教育』概念の再定義・再構築が課題となっているのである」<sup>1)</sup>と述べ、「市民的社会的な教育」とともに「継続的な教育、労働と職業に関連する教育」の意義について指摘している。

経済や労働をめぐる問題として、昨年秋以降、急激に進行した世界金融危機と円高によって、日本経済は戦後最大の危機に直面し、さらに深刻化しつつある。GDPが年率で約12パーセントと大幅に減少する見通しとなっている。これまで日本経済を代表するような大企業が相次いで生産の大幅な縮小を打ち出している。また、派遣労働者の大量解雇が行われ、大きな社会問題となっている。

こうした経済的な状況は、従来産業基盤の脆弱だった青森県の場合にも同様に、中小企業の操業縮小や倒産などにもともなって、失業者の増大や売り上げの著しい低下、といった状況が生まれている。こうした経済状況・労働市場の展開状況の下で、産業育成や地域の活性化など様々な政策が模索されているが、社会教育・生涯学習の視点からも様々な課題が探究される必要がある、と考える。

今日、社会教育では教育行政・専門職員の果たすべき役割や住民の学習活動などとともに、継続的な職業能力形成・「キャリア教育」への関心が高まってきている。国際的にも「コンピテンシー」についてOECDなどで調査研究がなされてきている。日本の場合でも、初等教育から「キャリア教育」の一環として「インターンシップ」などの試行がなされ、大学では「キャリアデザイン」などの取り組みが広がってきている。さらに成人を対象とした労働者教育を含め「キャリア教育」では大学の機能が注目され、従来的一般教養を中心とした公開講座を超えて積極的に地域社会に貢献する「大学開放」が追求されてきている。その主要な課題の一つとして、地域に根ざした研究や「技術開発・移転」が求められているが、地域の活性化に応える「人材育成」も重要な課題となっている。また、青少年を対象とした「キャリア教育」も重視されるようになり、従来厚生労働省が行ってきた職業訓練や地元企業が実施している研修では対応しきれない「キャリア教育」を、今後は「リカレント教育」として大学が積極的に担う必要があり、実践的にカリキュラム開発する必要がある、と考える。

その意味では、現在青森県教育委員会生涯学習課が進めている事業が注目される。「高大連携キャリア形成支援事業」という名称のこの事業は、高校生と大学生が「ナナメの関係」の中で交流するものである。その中で、主体的に生きようとする動機付けがなされていることの意義は大きいと考える。

また、社会教育・生涯学習研究においても、近年「キー・コンピテンシー」ということが重視されてきていることに注目したい。「キー・コンピテンシー」に見られるように、労働する能力形成の基本となるものは、「人間としての成長発達」の基本的なものの一つである。勿論、具体的な労働過程・労働条件に即して具体的に労働能力の獲得・向上を図ることが必要とされるのではあるが、いわば一般化された労働能力の形成ということと、個別具体的な労働能力の形成とを統一的に捉えることが重要である。

さらに、「労働・生産・生活過程」を主体的に編成する「主体性」を確立することが重要である。

以上のような「労働・生産・生活過程」全体を主体的に編成し実践する「生活主体」を設定することで、個人が他者・社会と主体的に関わりを持つことの重要性を念頭におきながら、「キャリア教育」と「大学開放」について位置づけしたい。

## Ⅱ. 生活の営みとキャリア教育

### (1) 生涯学習の捉え直し

生涯学習という用語が使用されて久しいが、「教育基本法」の改正で第3条に明記されるようになり、一般化したといえよう。しかし、改めて「生涯学習とは何か」という問い直しは必要とされている。とりわけ、社会教育との関わりで議論されることもあるが、ややもすると「生きがい」や「趣味・教養」に限定して捉える傾向もある。しかし、「働く」ということを基軸とした研究課題の設定が重要であるということが、改めて問われる必要があるのではないだろうか。佐藤一子は、「社会教育」に限定してではあるが、「生きがいと社会参加にとどまらず、『働く』という問題をいかに社会教育の課題にすえられるか」という問題が、青年期においても中高年期においても問われている<sup>2)</sup>と述べている。ここでいう「働く」という用語には、「キャリア教育」や「企業内教育」等をはじめ様々な内容が含まれていると考えられるが、いずれにしても「働く」という、生活を営む上で最も基本的な要素に関連する「教育」や「学習」を「社会教育」の中に位置づける必要性を指摘している、ということであろう。

ここで、この小論の論点に関することとして、「学習」ということについて簡単に以下のように整理しておきたい。

第1に、人間は「労働・生産・生活過程」のそれぞれの場面でつねに「学習」している、ということである。労働対象に働きかけて労働するプロセスの中でも、労働手段を十全に使いこなす努力をしながら、あるいは労働組織において「他者」との連携の中で様々な「学習」を行っているのである。

第2に、所属する「社会」の中で、その「社会」を構成する条件・特質の下で「他者」から様々な「働きかけ」を受け、また、その働きかけに対して時には積極的に、時



には消極的に対応しながら生きている、ということである。ここで言う「他者からの働きかけ」には、「組織化」された、研修等の名称が付された「教育」活動も含まれる。企業の場合には、「企業内教育」が極めて影響力のあるものとして機能している。これに対して、「公共職業訓練」は、日本の場合には多くの課題がある、と考える。

第3に、成長発達の諸段階に対応した諸能力の発達・形成や経験の蓄積を基礎として、成長発達段階に対応した「社会」の中で役割を果たさない「社会関係」を取り結ぶ、ということである。その中で、一方では「他者」の「働きかけ」を受け、他方で自ら「学習する」ということになる。それは、まさに誕生から死を迎えるまでの、生涯にわたる、ということである。

ところで、今日、成人の社会教育を研究する場合、「コミュニティ」における住民の生活や学習活動、そしてそれをサポートする社会教育専門労働・関連労働について多くの研究が蓄積されている。住民の学習活動という場合、労働・生産・生活に根ざした地域での様々な取り組みとその中で展開される学習活動へのアプローチが中心となっている。

しかし、先に触れたように、「労働・生産過程」に即して考えた場合、「労働力能の発達・形成」ということが重視される必要がある。現代社会では、多くの場合「働く」ということで収入・賃金を入手し、それで生活を営んでいる。「収入・賃金」を得るために、何らかの企業や行政などの「社会的組織」に属し、その組織で求められる「力能の発揮」をすることになる。雇用する側からすれば、いかに有能な労働力を確保し、その能力を発揮させるのか、ということが死活の問題となる。立場の違いはあれ、「働く」ということを基軸として「生活する」ということの意味を、「生涯学習」の中で捉え直す必要がある、と考える。

こうした中で、社会変容・技術革新などに対応した労働力の養成は1965年のユネスコ成人教育部会での議論以来重視されてきたが、近年「キー・コンピテンシー」ということが国際的にも国内的にも重要なものとして注目され、関心は非常に高いものになっている<sup>3)</sup>。

このように、労働を基軸とした「生涯学習」に対するアプローチが今後は重要になる、と考える。

## (2)「生活主体」の確立と生涯学習

「生活主体」という概念は、必ずしも十分吟味された概念ではない。しかし、今後生涯学習について実践的・実証的に研究を行っていく上で、重要なキー概念になる、と考える。

ここでは、「生活主体」について、以下の3点に絞って検討しておきたい。

第1に、「生活」を、「労働・生産・生活」を包含した、「労働・生産・生活過程の全過程を通して実現されるもの」、として捉えたい。したがって、労働に関する知識・技能の習得や、経営者としての管理能力の向上、地域住民としての社会的活動等々が、すべて含まれてくる。また、家族との人間関係を確立したり、「子育て」や「介護」なども含め家庭生活を十全に送ることも重要な意味をもつことになる。

第2に、「生活を営む主体」は個人としての生活の営み・様々な努力が基本となるが、個人は同時に「社会的個人」として、様々な社会的関わりの中で「生活を営む」ということの意義を積極的に捉え直す必要がある、ということである。これまで「公共性」を巡る議論なども行われてきたが、「個人」が「社会的存在」であるということで規定されてくる、と捉えることが重要である。また、次に述べる様々な生活課題・地域課題に対して、「社会的協同」で対処することの意味・必然性もここに起因するのである。

第3に、今日の「社会状況」が家族・学校・職場・地域で、それぞれ相互に分断・対立させられる傾向が強まる一方、同じ目標・目的のために「社会的協同」を追求する実践も発展してきており、そこに「生涯学習」を見いだすことができる、ということである。

例えば、介護問題について考えてみた場合、「在宅介護」が基本とされる中で家族構成員に介護の負担が強制される傾向が強まっている。中には、「介護疲れ」から暴力的になったり、介護者が病気を発症する、といった事態も生じている。こうした時、社会的なサービスの利用や住民のサポートも含め、介護を地域の協同で行うといったことが実践的に追求されている。環境問題や「学校支援」などでも地域の協同で対処する、といったことが実現している。

このように、「個人」が「生活する主体」として、様々な「社会的協同」を追求する中で自己の生活を確立する、ということが求められており、それは生涯学習の重要な課題となっている、ということである<sup>4)</sup>。

ところで、近年「ワーク・ライフ・バランス」ということがしきりに問題とされている。このことは、現状としてはあまりに「長時間労働」が一般化しているという実態があることを反映している。「企業への忠誠心・帰属意識」が強いこと、他方で組織労働者の力量の低下傾向も問題となっている。また、結果として、精神的・肉体的疾病の罹病も増大している。

とりわけ、「名ばかり管理職」といった「役職」の勤務実態は、無権利状態・無制限超過勤務の実態にあることが取りざたされている。「鬱病」が増大していることも指摘されている。これらは「労使関係」に規定されたものであり、従って基本的には「労使関係」の中で適正な労働条件の確保ということで解決されるが、諸個人の「能力」のレベルでも探究されるべき課題があるのではないかと考える。今日、職場でも「カウンセラー」が配置される例も多いが、個人の「自己啓発」を進める際に、「自分の努力で課題を解決しよう」という努力と同時に、すべてを個人的な努力に帰着させるのではなく「職場単位で協同することで課題に対処する」というスタンスを十分形成することが必要である、と考える。

一方、「2007年問題」として取りざたされてきた、「団塊の世代」の大量退職にともなう地域での新たな生活のスタート、ということにも触れておきたい。退職後、実質的に初めて「地域での住民」としての生活を始めるという人は、決して少なくはない。友人関係を持たず、「コミュニティ」におけるこれまでの行事や学習・文化活動などに参加する経験もないということであれば、そこに「居場所」を見いだすことに違和感・抵抗を感じることは当然であろう。まして、それまでの企業・官公庁などの「縦割り組織」



の中で「上意下達」の組織運営を行う経験しかもたない場合には、なおさらのことである。「組織」から離れ、みな「対等平等」の関係にある「人間関係」のなかで新たに人間関係を作っていく、あるいは「社会参加」していくことが「課題」として設定されることになる。

こうした課題を、現役の時から求められている、と捉えることが重要である。また、「生活主体」ということも、そうしたコンテキストの中で位置づけられるものであろう。

### Ⅲ. キャリア教育への注目

#### (1) 「キャリア教育」と職業訓練・職業教育の重視

「キャリア教育」は、学校教育・社会教育いずれにおいても教育内容に関わる主要な課題であり、「主体的に職業人・社会人として生きていくための準備教育および実践的教育」として捉えられるべきものである。これまで「中央教育審議会」などでは、主として、児童生徒に対する教育として議論されてきた。しかし、「キャリア教育」は、実際に社会の様々な場面で求められる労働力としての形成と職業観の形成という、2つの内容が統一されたものとして設定される必要がある。その意味では、優れて実践的に「社会」との関わりが具体的に探究される必要がある、と考える。

ここで、「キャリア教育」のプログラムの実践的開発の必要性について触れておきたい。

企業や行政など様々な労働場面において「キャリア教育」を確立する上での基本的な視点を探求するとことが求められている一方、「大学開放」の具体的な事業として実施できる、「教育プログラム」を開発することが求められている。その内容は、「専門的な知識・技能の習得」と「社会人・職業人として生きる」ということに関わる「ジェネラルな人間形成」とを統一的に捉えたものとする。そのプログラムの中で設定される「修得されるべきもの（能力）」は、資料の収集やその検討、課題の整理、仮説の設定・論証・プレゼンテーションといったことができる能力であり、そうした能力の形成・涵養を実践的に図る場合、グループ学習の方法・形態が有効である<sup>5)</sup>。

とりわけ若者に焦点を当ててみると、「ニート」の問題も重視されなければならない。就職しても人間関係で悩む場合が多く、結果的に退職し、さらに「引きこもり」になることも多い。「コミュニケーション能力が低下している」ということも指摘されているが、「労働観」や「社会参加」観、「自己との向き合い」等々の問題があり、それは今日の様々な教育問題の集約的な表現である、と考える。

ここで「キー・コンピテンシー」を基軸とした「キャリア教育プログラム」の作成の意義について触れておきたい。

まず、「キー・コンピテンシー」については、「相互作用的に道具を用いる」「自律的に活動する」「異質な集団で交流する」<sup>6)</sup>といった内容が集約的に示されているが、筆者なりに受け止めれば、「労働過程を主体的に遂行する上で求められる、労働組織との

協調性も含めた能力」ということになるだろう。

ところで、周知のように職業教育に関連して、様々な領域の企業（人事課）や公共職業訓練機関・「ジョブカフェ」など、「職業能力形成」や「就職相談」などを担当する機関・セクションがある。実際に職場で要求される「キー・コンピテンシー」の内実は、個別具体的な職種・企業等によって異なってくるとはいえ、様々な個別性を捨象した時、一般化できるものが見えてくる。「大学開放」事業として社会的に求められるものは、それらをふまえた「キャリア教育」プログラムを作成することである。

## **(2)「大学開放」と「キャリア教育」**

近年、首都圏の一部の私立大学などでは多様な「キャリア教育」を軸とした教育事業を展開するようになり、「大学開放」事業の一つの基軸として「キャリア教育」が設定されるようになってきている。社会人を対象とした「キャリア教育」は、厚生労働省や文部科学省などの行政の枠にとらわれず、企業内教育とは異なり、個人の主体的な学習や自律的・自立的な自己実現を目指す学習として実践的に探究されるべきものである。近年、カウンセラーなど特定の職種については、公開講座や「授業公開」などで、「大学開放」事業として対応する例も増加しているが、国立大学をはじめ多くの大学では、今後本格的に事業展開する必要がある、というのが現状である。

ちなみに、弘前大学でも、平成16年度から自治体（青森県）と共催で「あおりツーリズム人づくり大学『はやて』」という公開講座を実施してきた。これは、講師陣に大学教員、観光業や旅客業などの第一線で活躍している企業人（例えば、「星野リゾート」の星野氏や「東京ディズニーリゾート」の田丸氏等）などを迎え、地域の産業の活性化なども視野に入れながら、主として観光業や接客業などに関わりを持つ人々の「キャリア教育の場」として重要な役割を果たしている。

こうした経験からも、「大学開放」の一環として、「キャリア教育」が積極的に追求されるべきである、と考える。

また、このような事業を、他の「大学開放」の諸事業、即ち正規の授業の公開や、図書館の「開放」、「ミュージアム」などの施設の「開放」などと連動させることで、一方では住民にとっての「学習の深化」の可能性が拡大し、他方で新たな「大学開放」の展望が開けるのではないかと考える。

## **(3)「キー・コンピテンシー」研究の意義・必要性**

今日、日本の大学進学率は約50パーセントになり、高校と大学の連携を視野に入れた「教育改革」が必要とされている、と考える。これまでの教育は、教科に分割されさらに受験にシフトして「学力」が一面化されると同時に「選別」のツールになっている。また、従来「職業科」は特定の職種に特化した教育であるという考え方が根強くあり、「社会人・職業人」としてのトータルな形成を図ることが重要な課題となっている。

こうしたコンテキストのなかで、「キー・コンピテンシー」というコンセプトは、真に「職業教育と普通教育との統合」を実践的に探究する上でキー概念になる、と考える。

山田兼尚はこの間の国立教育政策研究所における調査研究活動をふまえ、「キャリア

発達、自己概念の発達という問題だけではなく、さらに広く、人生全体を通じての職業の位置づけやキャリア形成の知見との関わり」<sup>7)</sup>が深いとしている。「キャリア教育」は、具体的な職業に即した知識・技能の習得にとどまるものではなく、その学習効果として一人一人が主体的に社会と関わることの意義を理解すること、「学習意欲の向上」をはじめ学習活動の様々な場面で積極的に興味関心をいただき、自立的・自律的に生活を営むようになること、を可能にするものであると考える。また、それを可能とする生涯学習や「大学開放」を展開していくことが求められている、と考える。

#### (4) オーストラリアにおける職業訓練システム

ここで、オーストラリアにおける職業訓練システム「TAFE」(Technical and Further Education)についてふれておきたい。中等教育修了後の公的職業訓練・職業教育の在り方を比較研究する上でも意味のあることと考える。

オーストラリアにおける職業訓練システムについては、筆者は2007年と2008年にブリスベンで調査を行っている。ここでは、本論との関わりで、次の4点に限って触れておきたい。

第1に、中等教育終了後、様々な職種に即した一元的な国立の職業訓練システムが確立している、ということが挙げられる。調理師や看護師、アート・テクノロジーなど、様々な職種にわたって最新の「職業能力の形成」が図られている。

第2に、多民族国家であることから、また、現在も移民を受け入れているという事情から、職業訓練の準備教育として、語学教育も位置づけられている、ということがある。「語学」の習得は市民生活を送る上でも必須のものであるが、「職業訓練」と直結して「教育コース」や「教育プログラム」が用意されていることの意義は大きい、と考える。

第3に、修了後高等教育への進学のコースも設定されている、という特徴がある。多くは独立の職業訓練施設として設置運営されているが、大学に併設されている場合もある。そこでは、修了後、大学進学のコースも設定されている。

第4に、職業訓練を受ける上で、年齢制限は特に設定されていない、ということである。日本のような「終身雇用制度」は採用されていないので当然といえば当然なのだろうが、転職やキャリアアップを図る上で、広く「門戸が開かれている」ということである。

このように、職業訓練が整備されることで、青年が職業選択を行う上で、あるいは職業転換・他の企業への転換を図る上で、この職業訓練システムが十分活用されている、ということである。もっとも、最近の傾向として、政府の「TAFE」への予算支出が削減される傾向にあり、問題となっはいるのだが。

なお、オーストラリアにおける職業訓練システムについて検討する場合、日本における教育システムや職業訓練システム、さらに企業の雇用ポリシーや労働市場の特質、等々についても総合的に考察する必要がある、と考える。

## IV. キャリア教育の実践例から

### (1) キャリア教育を推進する上での課題

ここで、今後「キャリア教育」について探究していく上で前提として確認しておきたいことを、本論との関わりで以下の点についてのみ触れておきたい。

第1に、中等教育までの教育システムの中で、「職業高校」の位置づけの低さ、一種の「差別」があることである。先にも触れたが、真に「キャリア教育」について実践的に議論を進めていくうえでは、「支障」になるものと考ええる。

第2に、教育行政と労働行政の対立があることである。「縄張り意識」が、総合的な職業訓練やキャリア教育の展開を阻害する要因となっている。

第3に、近年のキャリア教育の位置づけが、全体のカリキュラムの中で十分位置づけられていない、ということである。教育目標・教育内容が教科別に分断される傾向が強く、「食育」といったことも結局一部の教科の枠の中で処理しよう、ということになっている。「キャリア教育」も同じ轍をふむことになりかねない。

第4に、企業の側では、「新人の採用」が基本となり、途中採用や転職者を積極的に受け入れようという姿勢が弱いことである。転職者や中途採用者を受け入れる条件（労働市場の展開）が乏しいため、転職やキャリアアップを志向しても、自己の努力が報われる可能性が乏しい、という現実がある、ということである。それは、個人レベルでも企業・社会のレベルでも、個人の多様な能力の発達とそれを基礎とした社会発展の桎梏となっている、と考える。

第5に、政府の労働力政策の問題がある。企業の要求に沿って、「終身雇用制度」の解体の方向で政策がシフトしてきている。最近、期間労働者や派遣労働者の問題が取りざたされているが、大局的には「安価な労働力の確保」を景気変動に対応して調整しやすい条件下で確保しよう、ということで「改革」ないし「規制緩和」がなされてきた、ということである。

第6に、日本の産業構造が、大企業優先のものとして実施されてきた、ということがある。勿論、中小企業保護の政策やベンチャー企業の育成といった課題も一定の政策の下で事業も展開されているが、大局的には「大企業優先」が貫かれている。大企業、それも輸出推進・資本輸出が積極的に推進されてきた。その分内需拡大はおろそかにされてきた、ということである。今日、食糧自給率が4割以下まで低下しているが、他の発達した資本主義国でもみられないほど「農業の切り捨て」が強行されてきたことも、軌を一にするのである。

第7に、企業の規模や業種・職種において、著しい賃金をはじめ労働条件の格差が存在することである。福祉の領域などでは、「ワーキング・プア」層が広範に形成されており、若者が夢をもって希望どおり就職しても、長期的な人生設計をしたときに、早い時期に転職を図らざるを得ない、という状況にある。

第8に、個人が職業について考える条件・価値基準を規定するものに、こうした職業選択・企業選択を規定する社会的現実がある中で、「有名大学」志向、「就職に有利」かどうかということが価値基準となる傾向が強まってきた、ということができよう。

そこでは、真に自分のやりたいことを追求することができない、という状況が作り出



されている。

「キャリア教育」に関連して、筆者も委員として関わっている「あおり再チャレンジ学習支援」事業について紹介しておきたい。この事業は、安倍内閣の下で政策的に重視されたものの一つとして、文部科学省の委託で実施されているものである。平成19年度から3年の期間が予定されているが、その主要内容は、「再チャレンジ」を目指す人々に対して研修を実施し有用な人材を育成する、というものである。「女性メンター」の育成、「若年者の就職支援」、「ホームヘルパー資格取得のための講習」、「医療事務の資格取得」、「企業人のキャリアアップ」、「障害者の就労支援」といった、対象・目的を絞った事業・講座で構成されている。これらは、基本的な性格として、優れて「キャリア形成」ないし「キャリア教育」として位置づけられる。これまで、厚生労働省と文部科学省との間で「労働者教育」をめぐる対立が存在し、その弊害も存在していたことは否定できない。しかし、この事業では、実践的にその「課題」の克服が志向されており、実際に大きな成果を上げている、と考える。端的に言えば、講座のカリキュラムが、労働過程に即して必要とされる「知識・技能の習得」と、職場の人間関係や労働を通じて接する人々との間の「コミュニケーション能力」、さらに「主体的自己の確立」といったことが追求されていることである。関連して佐藤一子が次のように指摘していることが注目される。即ち、「これまで成人教育の異なる分野であった一般教養的成人教育と職業教育・訓練の間で共通理解を深めるための対話がすすんでいる」<sup>8)</sup>と。筆者としては、佐藤のいう「職業教育・訓練」の中核を成すものは「キャリア教育」である、と理解している。

この事業の取り組みにおいて、次の点を確認しておきたい。第1に、青森県総合社会教育センターが事務局を担当し、これまでの社会教育・生涯学習実践の蓄積をふまえ、先に述べた講座を設定している。第2に、委員には商工会議所や職業安定所などの代表も加わり、企業家・労働者双方の立場を含む労働市場展開に関わる立場の人にも参加を得、講座の内容及び事業をより実践的なものにする体制が確立している、ということである。この事業については、別の機会に詳しく述べてみたい、と考えている。

ここで「キャリア形成」ということについて触れておきたい。

個別的な労働過程に限定して課題設定するのではなく、多様な知識・技能の習得から科学的な世界観の形成、芸術・文化的素養の習得など、幅広く「学習内容」を設定して課題設定する必要がある、と考える。

例えば、「ホスピタリティ能力」や「地域のプロデュース能力」など、職種・産業部門、企業の中での位置、等々によってその内容は大きく異なるものとなる。いわば、「個別性」を十分ふまえたものとして捉えることが必要である。その場合でも、「基礎・基本となるもの」と「専門的・応用的なもの」とが統一的に捉えられる必要がある、と考える。

このように捉えた場合、「基礎・基本となるもの」と「専門的・応用的なもの」とのそれぞれにおいて高等教育機関の果たすべき役割が存在する、と考える。

## (2)「高大連携キャリア形成支援事業」の検証

現在青森県教育委員会生涯学習課が推進している事業について触れておきたい。「高大連携キャリア形成支援事業」という名称で展開されているこの事業では、高校生と大学生が交流することで、高校生および大学生がそれぞれに「キャリア形成」を行うことが図られている。

具体的には、高校に大学生が出向き、高校生に対して「カタリバ」と「アシノコ」と呼ばれるワークショップを指導したり、大学生が自己の経験を語ることで、高校生の本気を引き出す、ということが企図されている。

高校生にとって大学生は、親や先生、あるいは同じ高校生とは異なる、比較的相談しやすい、しかも信頼感をもつことができる存在であり得る。「親子」や「先生と生徒」といった「タテの関係」では、知識・経験・価値観も大きく異なり、相談しにくい。また、高校生同士の「ヨコの関係」では、今日ではむしろ同じような状況で生活しているがゆえに、悩みや進路などについて相談し難い、という状況である。こうしてみると、高校生と大学生が「ナナメの関係」にあって、高校生を触発することができる、ということなのである。現代社会では、核家族化や少子化、「地域社会の崩壊」（地域における「共同体的」な人間関係の衰退）、職場における「競争的環境」の激化、等々の状況があり、そうした社会状況が青年層にも大きく影響を与えている、と考える。

勿論、大学生は、「カタリバ」と「アシノコ」と呼ばれるワークショップを実施する前に、一定の研修を受けることになる。学生の「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」を向上させなければワークショップを効果的に指導できないからである。換言すれば、その研修に参加したり、ワークショップに参加することで、大学生の「キャリア形成」が大いに促進されている、ということである<sup>9)</sup>。

## V. 結び

近年、急速にキャリア形成に関する取り組みや研究が追求されてきている。高校生や大学生といった青年期に、自分の進路・職業・将来について真剣に考え、真摯に自己と向き合うことが追求し難くなってきている、ということが言えるのではないか。であるからこそ、個人の「自主性」や「自己責任」にゆだねるのではなく、社会的に様々なサポートをする必要がある、ということである。

そのサポートの在り方は多様であり、学齢期のものとしてはすでに小学校から職業体験なども導入されてきている。大学生の場合も、各種の「実習」と区別してインターンシップということで企業や行政などで行われるようになっている。

このような「職業体験」においてどこまでキャリア形成の「基礎・基本」が追求されているのか、ということが問題である。

キャリア教育の基本として、2つの課題設定・方法がある、と考える。第1に、直接的に労働過程に即して必要とされる知識・技能の習得について、具体的な有用労働の内実に即したものとして「教育学習内容」を作成することである。教育労働者を例にすれば、教育労働者としてその専門性を構成する条件を中心として、内容が構成されることになる。



第2に、具体的な労働過程を抽象し、「労働一般」あるいは「労働力能」として設定する、というものである。

さらに、「労働・生産・生活」の全過程を統一的に捉え、「生活主体」の形成という文脈のなかで「教育」や「学習」を捉えることが必要とされてくる。それは「生涯学習論」の基本的課題であり、今後の「大学開放」において具体的・実践的に追求すべき課題として位置づけられるべきものである。

#### 〈注〉

- 1) 佐藤一子『現代社会教育学 生涯学習社会への道程』（東洋館出版社、p.45、2006年）。
- 2) 同前、p.14。
- 3) 「キー・コンピテンシー」については、ドミニク・S・ライチェン、ローラ・H・サルガニク著／立田慶裕『キー・コンピテンシー』（明石書店、2006年）を参照。
- 4) 関連して鈴木敏正が次のように言っている。「現代的人格としての諸個人は、個人的・家族的生活をとおして、企業活動の中で、さらには市民社会＝地域社会に展開する諸組織をとおして、社会的に形成されている」（鈴木敏正『生涯学習の教育学 学習ネットワークから地域生涯教育計画へ』、北樹出版、p.148、2008年、新版第一刷）。「社会的に形成されている」という視点が、個人の学習活動とともに「社会的個人」としての成長発達を捉える基本に据えられるべきである、と考える。
- 5) 佐藤一子によれば、「能力」について勝田守一が重要な指摘をしている。即ち、「かつて『能力』とは何かについて考察した勝田守一によってすでに早くから提起されていた。勝田は『能力の多様さ、深さ、その相互の関係が社会の歴史の中でつくられてきたものだ』として能力を4つのカテゴリーにわけてとらえた。第一は『生産の技術に関する能力』（労働技術の能力）、第二は『人間の諸関係を統御したり、調整したり、変革したりする能力』（社会的能力）、第三は『科学的能力とよばれる自然と社会についての認識の能力』、そして第四は『世界の状況に感応し、これを表現する能力』（感応・表現の能力）である。そして『認識の能力』を上段の位置において、他の三つがそれぞれ『認識の能力』をささえながら、相互に相関するものとして能力の発達構造を捉えた」（佐藤一子『現代社会教育学 生涯学習社会への道程』、東洋館出版社、p.44、2006年）。こうした勝田のとらえ方は、現代社会では労働環境や社会生活を営む環境が大きく異なっていることから「修正」する必要はあるが、基本的な視点として極めて重要である、と考える。
- 6) 前出、ドミニク・S・ライチェン、ローラ・H・サルガニク著／立田慶裕『キー・コンピテンシー』）。
- 7) 山田兼尚「生涯にわたるキャリア教育」（国立教育政策研究所編『キャリア教育への招待』、東洋館出版、2007年）。
- 8) 前出、佐藤一子『現代社会教育学 生涯学習社会への道程』、p.45。
- 9) 「高大連携キャリア形成支援事業」については、坂本徹が詳しく紹介しているので、参照されたい。坂本徹「今、若者に必要なこと—高大連携によりキャリア形成を支援しよう—」（『弘前大学生涯学習教育研究センター年報』、第12号、2009年）。

## 鉄道唱歌と津軽

吉 田 孝

私は、平成20（2008）年8月30日に開催された弘前大学生涯学習教育研究センター主催の「日本の歌を歌おう・唱歌」の講師を務めた。その唱歌の一種として、明治33年に発表された鉄道唱歌を紹介した。その鉄道唱歌の中で津軽地方と関係の深い曲として『鉄道唱歌第一集・奥州下り』（仙台・有千閣発行、1900）の一部を参加者といっしょに歌った。この鉄道唱歌について、このイベントのために、またイベントの際に不明であったことについて調べたことを書き記しておきたい。なお、本稿では、原文の歌詞の引用の際に、異字体のある漢字については、現在使用されている字体で表記している（ただし、人名については原文通りとした）。

### 1 「鉄道唱歌」とは

「鉄道唱歌」という言葉は、明治33（1900）年5月に国文学者の大和田建樹が作詞した「地理教育鉄道唱歌第一集・東海道編」（発行者・三木佐助）の発行によって生まれた。大和田建樹の作詞による鉄道唱歌は、同年注に第五集まで発行された（いずれも発行者は三木佐助）。

|     |           |        |              |
|-----|-----------|--------|--------------|
| 第一集 | 東海道編      | 5月10日  | 多梅稚・上眞行作曲    |
| 第二集 | 山陽・九州編    | 9月3日   | 多梅稚・上眞行作曲    |
| 第三集 | 奥州・磐城編    | 10月13日 | 多梅稚・田村虎蔵作曲   |
| 第四集 | 北陸編       | 10月15日 | 納所辨次郎・吉田新太作曲 |
| 第五集 | 関西・参宮・南海編 | 11月3日  | 多梅稚作曲        |

これらは、「地理鉄道唱歌」と銘打っており、最初は学校における地理教育のために作歌されたものであった。「唱歌（しょうか）」という語は、明治5年の学制頒布の際に教科の名称として生まれ、その後「唱歌」という教科の授業で歌われる歌の意味でも使われるようになり、さらに転じて学校教育で歌われる歌全般をさすようになった。

大和田作詞に鉄道唱歌の第一集・東海道編の歌詞の最初の4節を紹介しておく。

- 1 汽笛一声新橋を はや我が汽車は離れたり  
愛宕の山に入りのこる 月を旅路の友として
- 2 右は高輪泉岳寺 四十七士の墓どころ  
雪は消えても消え残る 名は千載の後までも
- 3 窓より近く品川の 台場も見えて波白く  
海のあなたにうすがすむ 山は上総か房州か
- 4 梅に名をえし大森を すぐれば早も川崎の  
大師河原は程ちかし 急げや電気の道すぐに

歌詞の中に、駅名、その地域の風景、さらには地域の特色や歴史が織り込まれている。

旋律面でも一つの特徴がある。我が国では1890年ごろから日本人の作詞・作曲による新しい歌が生まれてくる。リズムの面では、付点八分音符と十六分音符を基礎にしたいわゆる「ピョンコ節」あるいは「トンコ節」と呼ばれるリズムである（演奏される音価は、楽譜通りに3:1ではなく、2:1に近い）。また、旋律の面では「ヨナ抜き長音階」と呼ばれる階名のファ及びシの抜けた長音階の歌である。日清戦争の影響もあって、この旋律のスタイルによる多くの軍歌が作られる。「ピョンコ節」「ヨナ抜き長音階」は、田村虎蔵や納所（のうしょ）辨次郎らによって、唱歌の世界にも入り込んでくる。これが、言文一致唱歌である。例えば、「まさかりかついで、キンタロー」で知られる「キンタロー」（田村虎蔵作曲）<sup>1)</sup>や「もしもしかめよ」で知られる「兎と亀（納所弁次郎作曲）<sup>2)</sup>」は原文一致唱歌の代表的な作品である。

「鉄道唱歌」、とくに多梅稚（おおのうめわか）の旋律は典型的な「ピョンコ節」「ヨナ抜き」になっている。大和田の鉄道唱歌には二人の作曲者が曲をつけているが、実際に歌われたのはこの楽譜の多梅稚によるものだけであった。第一集の多梅稚の楽曲と上眞行（うえさねみち）の楽曲を譜例1、譜例2に示しておく。

譜例 1

鐵道唱歌 多梅稚作曲

キーガキ イツセ イシンバシチ  
みーぎは たかなわ せんがくじ  
マドリ チーガク シナガハノ  
ハヤダガ キシヤハー ハナレタリ  
しーじふ しちしの はかどころ  
ダイバモ ミーニタ ナミシロガ  
アオゴノ ヤーマニ イリノコル  
ゆーきは きえても きえのこる  
キーミノ アナタニ カスガスム  
フーキチ オセザノ トモトシチ  
なほせん ぞーいの のちまでも  
キーマハ カヅサカ バシシカ

譜例 2

鐵道唱歌 上眞行作曲

キーガキ イツセ イシンバシチ  
みーぎは たかなわ せんがくじ  
マドリ チーガク シナガハノ  
ハヤダガ キシヤハー ハナレタリ  
しーじふ しちしの はかどころ  
ダイバモ ミーニタ ナミシロガ  
アオゴノ ヤーマニ イリノコル  
ゆーきは きえても きえのこる  
キーミノ アナタニ カスガスム  
フーキチ オセザノ トモトシチ  
なほせん ぞーいの のちまでも  
キーマハ カヅサカ バシシカ

上眞行（うえさねみち）は、式部寮雅楽課の伶人として音楽取調掛の事業に加わり、当時は東京音楽学校で教鞭をとっていた。多梅稚は大阪師範学校の教諭であった。上はすでに音楽家として名声があり、音楽家としても上の方が格上であった。しかし鉄道唱歌に関する限り、上の旋律に不自然さがあるのに対し、多梅稚の旋律の方が歌いやすく優れている。起承転結のある名曲と言えよう。

この鉄道唱歌第一集は10年後の明治43年に訂正版が発行されるが、その時には上の旋律は掲載されず、多の旋律だけが掲載された。その前書きには次のように記されている。

学生生徒の口にする唱歌の夥しきことよ。苟も社会に大事あらば直に歌にせられ、人物といはず、地理といはず、事物の上にも、会合の上にも、記念といひ、懷想と称して、必ず唱歌の伴はざるはなし。しかも此の隆盛を来したる其の始を採ぬれば、おふけなれど、この鉄道唱歌こそ其の祖としもいふべけれ。「汽笛一声新橋を」の歌声は、可憐の口に吟誦せられて日本全土に響きわたりけむ<sup>3)</sup>。

このように、鉄道唱歌は第一集の発行以来、学校のみでなく一般に広まり、多くの人々が口にする旋律になっていったのである。そしてこの鉄道唱歌の流行にのって、数多くの鉄道唱歌が発行されていくことになる。私が確認できているものは次の通りである。

#### 大和田建樹の作詞によるもの

|             |      |        |
|-------------|------|--------|
| 北海道鉄道唱歌・南の巻 | 1906 | 田村虎蔵作曲 |
| 北海道鉄道唱歌・北の巻 | 1907 | 田村虎蔵作曲 |
| 伊予鉄道唱歌      | 1909 | 田村虎蔵作曲 |
| 大阪市街電車唱歌    | 1908 | 田村虎蔵作曲 |
| 東海道線唱歌・汽車   | 1909 | 田村虎蔵作曲 |
| 山陽線唱歌・汽車    | 1909 | 田村虎蔵作曲 |
| 九州線唱歌・汽車    | 1909 | 田村虎蔵作曲 |

#### その他の作詞によるもの

|              |      |                 |
|--------------|------|-----------------|
| 伊予鉄道唱歌       | 1900 | 尚文会編・作詞作曲者不明    |
| 鉄道唱歌第一集・奥州下り | 1900 | 四竈訥治作詞・四竈仁邇作曲   |
| 大和名所・鉄道唱歌    | 1900 | 安藤隆治作詞・清水幾松作曲   |
| 歴史地理教育鉄道唱歌   | 1900 | 菜花園主人作詞・古屋弘政治作曲 |
| 歴史地理教育鉄道唱歌   | 1900 | 菜花園主人作詞・中村林松作曲  |
| 北海道鉄道唱歌第一集   | 1900 | 古川金次郎作詞・作曲者不明   |
| 山形鉄道唱歌       | 1900 | 関時発作詞・岡井三郎作曲    |
| 東京地理教育電車唱歌   | 1905 | 石原和三郎作詞・田村虎蔵作曲  |
| 中央線鉄道唱歌      | 1911 | 福山寿久作詞・福井直秋作曲   |
| 山陰鉄道唱歌       | 1911 | 岩田勝一作詞・田村虎蔵作曲   |



数多くの鉄道唱歌が作詞・作曲されたのだが、一つ一つを見ていくと粗製濫造の感は免れ得ない。田村虎蔵は「一時の流行にほだされて出版せられたる、此等多数の鉄道唱歌は、実に疎漏杜撰極まりて、殆ど見るに堪へざるものあるなり<sup>4)</sup>」と述べた。しかし、その田村自身による旋律も後年になるにしたがって杜撰になっていく。ほとんどが多梅稚の旋律の二番煎じであって、しかも多の旋律を超えるものではない。

言い方を変えれば、多梅稚の旋律がそれだけ絶大な人気を擁したということであろう。実際に多梅稚の旋律は、第二次世界大戦後まで歌い続けられ、私自身、子どもの頃から大人たちがこの歌を歌うのを何度も耳にしている。まさに「鉄道唱歌」と言えばこの旋律のことを指すといっても過言ではないだろう。

## 2 津軽を歌った鉄道唱歌

津軽を歌った歌詞を含む鉄道唱歌は、四種確認できる。次の通りである。

|                  |      |                    |
|------------------|------|--------------------|
| 地理教育鉄道唱歌第三集奥州磐城編 | 1990 | 大和田建樹作詞・多梅稚・田村虎蔵作曲 |
| 歴史地理教育鉄道唱歌       | 1900 | 菜花園主人作詞・古屋弘政作曲     |
| 歴史地理教育鉄道唱歌       | 1900 | 菜花園主人作詞・中村林松作曲     |
| 鉄道唱歌第一集・奥州下り     | 1900 | 四竈訥治作詞・四竈仁邇作曲      |

大和田建樹作詞の鉄道唱歌には、多梅稚の旋律（第一集と同じ）の他に田村虎蔵の旋律が掲載されている（譜例3）。「ピョンコ節」のリズムの中に付点四分音符と八分音符からなるリズムを入れて単調さを避けているが（このリズム形は原文一致唱歌の中に数多く見られる）、全体としては盛り上がり乏しく、多の旋律を超えていない。

歌詞は、上野から東北本線を北に下り（1～41節）、青森から奥羽本線で弘前まで来て（42節）、帰りは仙台から上野までを常磐線の上る（43～64節）というものである。

青森県を歌った部分は次の通りである。

- 37 尻内こせば打ちむれて 遊ぶ野馬の古間木や  
今日ぞ初めて陸奥の 海とは是かあの船は
- 38 野辺地の湾の左手に 立てる岬は夏泊  
とまらぬ汽車のすゝみゆく 八甲田山も迎へたり
- 39 渚に近き湯ノ島を みつゝくゝれるトンネルの  
先は野内か浦町か 浦のけしきのはれやかさ
- 40 勇む笛の音いそぐ人 汽車は着きけり青森に  
昔は陸路廿日道 今は鉄道一昼夜
- 41 津軽の瀬戸を中にして 函館までは二十四里  
ゆきかふ船の煙にも 国のさかえは知られけり
- 42 汽車のりかえて弘前に あそぶも旅の楽しみよ  
店にならぶは津軽塗 空に立てるは津軽富士



大和田の歌詞に出てくる駅名は、尻内、古間木、野辺地、野内、浦町、青森、弘前であり、当時存在した駅（後述）もかなり省略されている<sup>5)</sup>。また、津軽地方についても第一集の東海道編に比べるとその描写も手抜きされている。当時だから、津軽まで取材をすることは期待できないとしても、弘前が「津軽塗」と「津軽富士」とは平凡である。

なお、菜花園主人の作詞によるものはどちらも同じ歌詞である<sup>6)</sup>。

古屋弘治はこの歌詞に二種類の旋律をつけている。

4 / 4 二長調 ヨナ抜き

2 / 4 ソで終わる ピョンコ節

楽譜は省略するが、旋律の流れも不自然で、田村の言う「疎漏杜撰極まりて、殆ど見るに堪へざるもの」の典型である。

中村林松も二種類の旋律をつけているが、これは五線譜ではなく数字譜で示されている。雅楽調の旋律にする意図があったようだが、やはり不自然で歌うことはほとんど不可能である。

歌詞は、東京から青森までを歌ったものだが、駅名は省略され、次のように地理教育さえ役に立ちそうもないおおざっぱなものであった。

上野を出でて一昼夜 三百六十哩の  
 長途もこゝに北海の 五港のなる函館と  
 往来もしげき青森の 港に着きて眺むれば  
 百貨を山に積み成せる 状を見るこそ愉快なれ。

四竈訥治作詞のものが、「日本の歌を歌おう・唱歌」で取り上げたものである。これについては項を改め、歌詞を含めて少し詳細に述べることにする。

### 譜例 3

#### 鐵道唱歌 (三線) 田村虎蔵作曲

鉄 道 歌  
 上 野 出 だ 一 日 夜 三 百 六 十 哩 の  
 長 途 も こ こ に 北 海 の 五 港 の なる 函 館 と  
 往 来 も し げ き 青 森 の 港 に 着 き て 眺 む れ ば  
 百 貨 を 山 に 積 み 成 せ る 状 を 見 る こ そ 愉 快 な れ

### 譜例 4

#### (中脩) 奥州下り

奥 州 下 り  
 上 野 出 だ 一 日 夜 三 百 六 十 哩 の  
 長 途 も こ こ に 北 海 の 五 港 の なる 函 館 と  
 往 来 も し げ き 青 森 の 港 に 着 き て 眺 む れ ば  
 百 貨 を 山 に 積 み 成 せ る 状 を 見 る こ そ 愉 快 な れ

### 3 四竈版「鉄道唱歌」に歌われた津軽

この鉄道唱歌は、「智育鉄道唱歌第一集・奥州下り」というタイトルで、明治33年9月に仙台市の有千閣から出版されている。いわば地元出版ということになる。さらに同年11月には挿絵の入った増補版が出版されている。大和田建樹の鉄道唱歌ブームにのって出版したのであろうが、大和田の「奥州・磐城編」より一月はやく出版されたので営業的には成功した可能性がある。それが増補版の発行につながったのではないか。

四竈訥治（しかまとつじ、1854-1928）は、明治23（1890）から31年まで刊行された日本最初の月刊音楽雑誌である『音楽雑誌』（後に『おむがく』と改名）の創始者であり、その創刊号に「発刊の趣旨」を掲載している<sup>7)</sup>。またオルガン奏法や唱歌集などの出版物がある。しかし、明治29年には故郷の仙台に引き上げて「東北音楽会長」を名乗っている<sup>8)</sup>。

作曲者の四竈仁邇（じんじ）は訥治の弟であり、音楽取調掛で伝習を受けた後、宮城県師範学校で教鞭を採っている。

この唱歌集は、「東北音楽会長」「宮城県師範学校教諭」の肩書きで出版されており、作詞が兄、作曲が弟になっているが、合作の可能性が高い。

旋律は2／4拍子でト長調のヨナ抜きだが、完全なピョンコ節ではなく、八分音符の混在したりリズム形である。この旋律は多梅稚のピョンコ節のように調子よくは歌えない。そのせいか「中庸に」という速度の指定がある。もちろん大和田の鉄道唱歌は意識したのであろうが、多梅稚の旋律とはまったく異なった趣の曲になっている。

歌詞は、全部で42節（訂正版）まであり、仙台を起点に青森まで下り、さらに当時落成したばかりの奥羽本線の鷹ノ巣までを歌い、その後工事がすすんで山形まで伸びていくことを予告することでこの歌は終わっている。

また、起点が仙台であり駅数も少ないことから、一つひとつの駅を歌詞の中に織り込みそれぞれの地域について詳しく説明した歌詞になっていることも特徴である。例えば最初の仙台市については次のように歌っている。

- 1 奥羽の都仙台市 町の数さえ三十二  
東西南北二里四方 人口七万六千余  
略
- 4 武勇名高き正宗が 三百年の其の昔  
築きて住みし青葉城 今二師団の営舎なり

このように、仙台市の面積や人口、産業、歴史などがすべて分かるようになっているのである。

青森県についてはここまで詳しくはないが、駅名を省略することなく歌っている（以下は増補版より）。

- 37 一戸、福岡、三戸を 行くは剣吉尻内の  
支線に留り乗替ば 八戸湊鯨港

当時は三戸（明治24年開業）は青森県の入り口（現在は目地）であり、剣吉（同30年）を経て尻内（同24年、現八戸）に着く。そこから八戸線に乗り換えれば、現在の八戸本町にあたる旧八戸（同27）、湊（同27年、現在は廃線）に行くことができることが分かるようになっている。なお、鮫方面への路線はまだ開通しておらず、この歌詞は単にその先に鮫港があることを教えているにすぎない。

- 38 それより元に乗り戻り 下田古間木を眺めつゝ  
沼崎つゝき三本木 乙供までは皆牧場  
39 野辺地に雪の降り積り 地獄極楽恐れ山  
此処に生まれし生唆に乗りて昔は狩場沢  
40 海は遙かに茫々と 見ゆれど其名小湊に  
漁る舟は帆立貝 鱈採る業に日を暮す  
41 其日の業に織る布の麻を温湯に涵すため  
字さへ附けし麻蒸を 見る間野内（のうち）に浦町や

ここでは、駅名が続いている。38節は、下田（同24年）、古間木（同27年、現在は三沢）、沼崎（同24年、現上北町）、乙供（同27年）が駅名で、「沼崎つつき三本木」は沼崎をつつくと三本の本が出てくるとして近くの三本木を歌った作者の遊びであろう。

39節で、野辺地（同24年）の風景と恐山について触れ、狩場沢（同24年）ではこの地がかつて埴埴（いけづき）名馬の産地であったことを歌っている。40節では小湊（同24年）の風景である。

41節では、浅虫（同24）を「麻蒸」と歌い、もともと麻を蒸すために温泉をつかっていたという故事を紹介している。野内（のない、同26年）を「のうち」と読ませて「見る間のうちに」と遊び、次に浦町（同24年、現在は路線の南への移動により廃止）を紹介している。

- 42 停まる車を降りながら 待人々に人に青森や（「待つ人々に青森や」の誤植か）  
積もる話は尽ねども 別れは名残り惜しまれて  
44 此処は入海底深く 北海道に行く舟を  
送り迎ふる大港 又弘前に行く旅路

青森（同24年）の風景を二節使って歌っている。43節がないのは誤植であろう。

なお、東北本線は私鉄の日本鉄道が営業し、上野－青森間が全通したのは明治24年であった。

歌は、さらに奥羽本線へと続いている。

奥羽本線は、官営鉄道として明治27年に青森－弘前間が開業している。

- 45 新城大釈迦浪岡を 超えて川部も通り過ぎ  
弘前にこう着きぬれば、南津軽の大都会

新城、大釈迦、浪岡、川部、弘前はすべて明治27年12月に同時開業した駅である。弘前が大都会とされたのは、明治22年の市長村制施行の際に青森県内唯一の市として全国32市に加わったこと、27年に鉄道が開通したこと、30年には陸軍第八師団司令部が置かれて転入者が増えたからである。日本で国政調査が最初に行われたのは大正9年であるが、その時のデータによると、弘前市の人口は32,767人で、面積も現在の市街地だけの0.36方里（5.19平方キロメートル）である<sup>7)</sup>。人口密度は6310.72人/平方キロメートルである<sup>9)</sup>。

- 46 進めばその名も大鰐に 碇が関も面白し  
過ぎ来し旅路しるさんと 矢立峠も面白し  
47 今度開けし大館の 建物さへも新しく  
鷹（わし）の巢も亦落成し秋田を過ぎて山形と  
48 通うは花咲く頃ならん 嬉しき気味の大恵  
祝へ奉らん千代や千代 祝へ奉らん千代や千代

この唱歌は48節で終わる。

弘前－碇ヶ関間は明治32年に開通し、大鰐、碇ヶ関駅もその時に開業する。また、碇ヶ関－大館間は32年に開通するが、その間の陣馬、白沢が省略されている。さらに大館－鷹ノ巣間はほとんどこの鉄道唱歌と時を同じくして開通するのだが、早口が省略されている。鷹ノ巣には「わしのす」と誤ったふりがなが打たれている。この部分は手抜きされている。やはり急いで出版したせいである。

この歌詞には、大和田版とは別の曲がつけられているが、もちろん多梅稚の旋律で歌うことも可能である。実際にどれくらい使用されたかはわからないが、この歌を地理教育の手段として使えば、それなりの効果が得られたことは間違いない。この歌の青森県の歌詞は、地理の教科書になっている。

## おわりに

音楽を手段として利用することに対しては、現在では多くの人が抵抗するに違いない。しかし、一方で人間が音楽を手段として利用してきた歴史は否定できない。

西洋では、音楽は長い間宗教的儀式の手段であった。音楽なしには儀式そのものが成立しなかった。また、軍隊の育成のための訓練の手段でもあった。さらには、唱歌そのものが国民教化の手段でもあった。

それでも、この「鉄道唱歌」ほど、直接的な効果を期待した歌はめずらしい。この歌そのものが、地理・歴史教育の教科書になっているし、「学習とは暗記することである」と割り切ってさえしまえば、これほどどうってつけの教材はない。子どもだけではなく大人たちさえも、実際にこの歌によって今まで行ったこともない未知の地方のことを想像したのではあるまいか。

私自身、「奥州下り」の青森県の部分の歌詞を口ずさんでいると、東北本線や奥羽本線の車窓からの風景（現在の風景だが）が浮かんでくる。また、この歌詞にそって、鉄道史

を調べるのも楽しい作業ではあった。

20世紀を目前にした1900年の津軽に心を馳せて、この歌をみんなで声をそろえて歌ってみるのも一つの楽しみであるかもしれない。

## 注

- 1) 納所辨次郎，田村虎蔵編『唱歌適用幼年唱歌第一卷上巻』十字屋，1900
- 2) 同上，第二編第三巻
- 3) 大和田建樹，多梅稚著『地理教育鉄道唱歌・訂正版』三木佐助，1910
- 4) 田村虎蔵「鉄道唱歌の批判及び其の教授上の注意」『教育実験界第七巻第三号』1901
- 5) 以下、当時の鉄道に関する記述については次の文献を参考した。  
『日本国有鉄道百年史・索引・便覧』日本国有鉄道，1974  
川上幸義『真意本鉄道史上・下』鉄道図書刊行会，1967
- 6) 両者とも「自省堂発行」とされている。
- 7) 『音楽雑誌創刊号』音楽雑誌社，1890（復刻版，出版科学研究所，1984）
- 8) 増井敬二「『音楽雑誌（おむがく）』解題」『音楽雑誌補巻』出版科学研究所，1984
- 9) 『大正九年・昭和五年国勢調査報告府県編・青森県』内閣統計局，1934（復刻版，本の友社，1997）



# 今、若者に必要なこと

## ～高大連携によりキャリア形成を支援しよう～

坂 本 徹

### I. はじめに

現在、「若者」をめぐる教育問題が様々な角度から議論されているが、今回は「キャリア形成」という視点でいろいろと考えてみたい。

昨年6月に秋葉原で起きた無差別殺傷事件は、今日の「若者」がおかれている状況を示す、一つの象徴的な出来事として捉えることができるのではないだろうか。夢を描くことも、夢を追求することも、自分の満足いくまでやりきることができない。周囲とのコミュニケーションも十分にはとれず、派遣労働者という不安的な身分で孤独にさいなまれた若者の姿がそこにある。この事件の直接的な原因は不明であるが、背景に若者のキャリア形成の問題があることは否定できないと思う。

### II. 時代が求めるもの、社会が求めるもの

「若者」については、成長発達段階のステージの一つとして、①身体的な成長発達と②知識・社会性などを含めた精神的な成長発達という二つの視点から捉えることが必要とされるが、ここでは精神的成長発達を中心として、高校生・大学生を対象を絞って議論を進めていきたい。今、若者に必要なことは何か…そのことを考えるにあたっては、その人自身の要求や、親や会社など周囲の要求など様々であるが、その中でも、時代が求めるもの、あるいは社会が求めるものという視点も重要である。

#### (1) 改正教育基本法と教育振興基本計画

周知のように、平成18年に教育基本法が改正された。制定以来50年以上たって初めての改正であったが、その前文に「創造性を備えた人間」という言葉が出てくる。また、「未来を切り拓く」という言葉もよく目にする。これらの言葉は、第2条教育の目標において、「能力を伸ばし、創造性を…」と、再度取り上げられている。教育基本法は、教育に関わる者にとって憲法の次に重要な法律であるが、その中にこのようなキーワードが出てきたことに着目する必要がある。

この基本法を具現化していくため、7月1日に「教育振興基本計画」が閣議決定された。これは、今後10年で教育を通して目指すべき姿を記したものであるが、この中には「自立して社会で生きていく」という表記がある。また、「義務教育終了までに、すべて

の子どもに自立して社会で生きていく基礎を備える」としている。さらに、「社会を支え発展させる」あるいは「国際社会をリード」とも書かれている。これらは前述の「創造性」や「未来を切り拓く」という理念に通じるものである。

## (2) 青森県における教育計画

ここで、青森県の教育計画について触れておきたい。平成20年12月に「青森県基本計画・未来への挑戦」が策定された。これは2030年における青森県の目指すべき姿を示し、そのために今後5年間に取り組むべき様々な課題と方策を記したものである。「教育・人づくり分野」が4つの柱の一つとして掲げられ、生活創造社会の礎と位置づけられている。国内外で活躍できる人材を青森県から輩出することが目標として設定されているが、その中で「志を抱き、社会で自立する力」「たくましく成長」「未来を切り拓く」といった言葉がキーワードとなっている。

ここで一つの命題を考えてみよう。今、目の前に一人の生徒がいると仮定する。この生徒は数学が得意でテストでは毎回100点を取る。しかし、英語は苦手で40点くらいしか取れない。さて、この生徒に対してどう指導したものだろうか。

一つの方法は、数学の学習に注ぐ力を幾分割いて、英語の学習に力を入れよという指導である。苦手を克服して、せめて60点くらい取れるようになりなさいと。現実的には、このように指導する人が多いであろう。果たして、英語が60点にアップし、その代わりに数学は80点に。合計140点は前と同じだが…。

一方、嫌々英語をやるよりも、好きな数学に全力投球するように指導する方法もある。もしかしたら、100点はおろか200点に相当する力を秘めているかもしれないのだ。得意な科目を伸ばす方が良い結果を生み出す可能性もあるのだ。もっとも、最近はこのような指導をする先生は少ない、というよりほとんどいなくなってしまった。厳しい社会情勢から考えると妥当なのだろうが、夢は小さくなり、生活も平均化されるという現実は淋しい限りである。厳しい状況の今こそ、「夢を描く力」そしてそれを「実現する力」が、若い人たちに求められているのではないだろうか。

## Ⅲ. 夢を描き、実現する力 ～ある小学校6年生の作文から～

「夢を描く」ということと関連して、多少長くなるが、ここである小学校6年生の作文を紹介したい。

『ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには中学・高校で全国大会に出て活躍しなければなりません。活躍できるようになるには、練習が必要です。ぼくは、その練習には自信があります。ぼくは3歳のときから練習を始めています。7歳くらいまでは1年の半分くらいでしたが、小学校3年生になってからは、365日中360日は激しい練習をやっています。だから一週間のうち友達と遊べるのは5・6時間くらいだけです。そんなに練習やっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。中学・

高校で活躍して、高校を卒業したらプロに入団するつもりです。そしてその球団は中日ドラゴンズか西武ライオンズが夢です。ドラフト入団で契約金は1億円以上が目標です。ぼくが自信があるのは、投手と打撃です。去年の夏、ぼくたちは全国大会へ行きました。そこでたくさんの投手を見ましたが、自分が大会ナンバーワン投手だと確信できるほどです。打撃では県大会4試合のうち、ホームランを3本打ちました。全体を通した打率は5割8分3厘でした。自分でも納得のいく成績でした。ぼくたちは1年間負け知らずで野球が出来ました。だからこれからもこの調子でがんばります。ぼくが一流の選手になって試合に出れるようになったら、お世話になった人に招待券を配って応援してもらうのも夢です。とにかく一番大きな夢は、プロ野球選手になることです。』

原稿用紙の片隅に担任の先生のコメントが書かれている。『ひとつ大きな夢があるって、とてもハリがあっていいですね。誰にも負けないくらい練習をしてきたのだという誇りがある限り、鈴木君の夢はかなうでしょうね。がんばってね。』と。

この作文を書いたのは鈴木一郎…周知のように大リーグで活躍しているイチロー選手である。彼は小学校6年生にしてこれだけの大きく具体的な夢を持っていたのである。この作文からわかるように、一郎少年の夢は漠然としたものではなく、極めて具体的な夢であった。それがイチローへのスタートであったとすることができよう。そして、彼はその夢に向かって着実な努力をしているのである。イチローは天才バッターだと言われることが多いのだが、イチローをよく知る人は、「陰で努力をするタイプ」と言っている。つまり、彼には、夢を描く力だけではなく、夢を実現する力もあったということである。

「夢を描く力」と「夢を実現する力」は密接に繋がっていて、共通することも多い。本人の意志や努力だけではなく、環境や周囲のサポートが重要であることだ。例えば、初期の段階では「きっかけ」や「刺激」といったものが、具体化の段階には「研鑽の場」や「実体験」などが重要である。その際、周囲の人々の果たす役割が非常に大きいと言えるのではないかと。例えば、先に紹介した一郎少年の先生が作文の余白にコメントを書かなかったら、世界のイチローは存在していなかったかもしれないのだ。

#### Ⅳ. 青森県教育委員会によるキャリア形成支援の動き

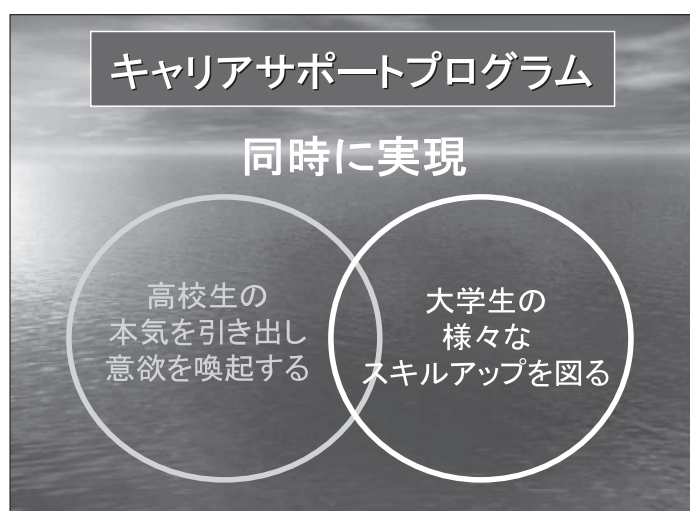
##### (1) キャリアサポートプログラム（高大連携キャリア形成支援事業）

青森県教育委員会が高校生と大学生を対象に実施している事業の一つを紹介しよう。高校生には夢を追求する「本気のきっかけ」を与え、同時に大学生には「研鑽や実体験の場」を提供しようというものである。県教育委員会によるキャリア形成支援の取組は、これまでは主に学校教育の枠の中で実施されてきたが、ここで紹介する「高大連携キャリア形成支援事業」は、学校教育の枠外、すなわち社会教育によるキャリア形成支援である。これまで、社会教育セクションが、若者のキャリア形成に関わりを持つということは、ほとんど無かった。時代や社会が大きく変化する中で、社会が求めるものも

大きく変容したということであろう。つまり、従来のように、学校で教科・科目に沿った学習をするだけではなく、様々な経験を積み、様々なテーマ・内容について考え、スキルアップを図る等々のことが要求されているのだ。しかしそれは学校教育の中だけでは必ずしも十分にはできないのである。最近では、インターンシップなどで中学生や高校生も学校の外に出て学習するケースが多くなってきた。「学校外の教育力」や「地域の教育力」の有効性を認めて、それを効果的に学校教育に活かそうということであろう。このことは大学も同じであると考えられる。大学生が高度な学問を修めるために「大学の中」で学ぶのは当然であるが、一方で社会的な体験を「大学の外」に求めることも必要であろう。

そういう視点で見えてみると、教育委員会の生涯学習あるいは社会教育のセクションが、高校生や大学生のキャリア形成に関わりを持ち始めているというのは、ある意味必然的な流れであると考えられる。

高大連携キャリア形成支援事業の具体的な内容は、「キャリアサポートプログラム」と名づけたキャリア形成支援の仕組みであり、「高校生の本気を引き出し、意欲を喚起する」とことと「大学生の様々なスキルアップを図る」ことを同時に実現しようというものである。最近よく耳にするWin and Winの関係である。Give and Takeに似ているが、「同時に」というところがWin and Winのポイントだ。



高校生にとっての意義は、「本気」のきっかけを得ることである。何をするにしても、本気にならないければ始まらない。どんなに良い教材を用意しても、どんな良い先生がどんなに良い授業を行っても、生徒自身の学習しようという気持ちがなければ効果を上げることはできない。高校生にとってのキャリアサポートプログラムは、誰もが持っている「本気」の気持ちを引き出して意欲を喚起する仕掛けである。

一方、大学生にとっての意義はコミュニケーションやプレゼンテーションなどのスキルアップである。実践的な研修とワークショップへの参加によって、大学生たちは着実に逞しくなっていく。高校生との関わりは、自分の軌跡を振り返ったり、自分の生き方を見つめなおしたりする機会でもある。大学生にとっての「キャリアサポートプログラム」は自己研鑽の場なのである。

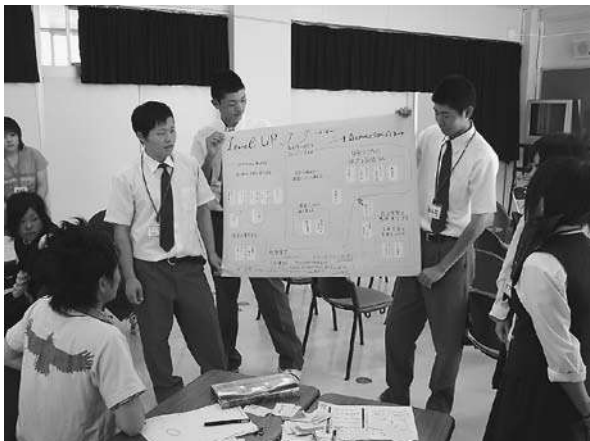
## (2) 2つのワークショップ

キャリアサポートプログラムは、「カタリバ」と「アシノコ」という2種類のワークショップで構成されている。





「カタリバ」は、高校生の心の中にある本気を引き出し、自分が描く将来に向かう意欲を喚起するためのワークショップである。東京都のNPOカタリバが開発したものであることから、「カタリバ」と呼ぶことにした。



「アシノコ」は、一人一人の「本気」を凝縮し、個人の意欲を集団全体の意欲へと高めるためのワークショップである。筆者自身が高校1年生のときに参加した「あしこの学校」という林間学校で実施されていたワークショップである。SONYの常務をつとめた小林茂氏が、KJ法をもとに開発したもので、集団で楽しくできるようにトランプ式になっている。当時はTKJ法と呼ばれていた。

### (3) ワークショップ「カタリバ」の実際

ここで、ワークショップ「カタリバ」について詳しく紹介しよう。「カタリバ」に要する時間は概ね2時間で、大きく分けて3つのステージで構成されている。

第1ステージ（30分程度）は高校生に自分の「今」を確認させ、第2ステージ（40分程度）は大学生の体験談によって高校生のやる気を刺激するものである。そして第3ステージ（40分程度）では「将来」を考えさせる。この過程において、大学生は高校生と一緒に考えて「具体的な一歩」に結び付けていくという展開になっている。



★9月上旬に田名部高校大畑校舎で実施した、「カタリバ」の風景である。体育館を会場として実施した。高校生が入場する前に、大学生がまず自分たちの意識を高めよう、気合を入れようとしているところである。





★「人間知恵の輪」と呼ばれるアイスブレイクである。初対面で心を開くのは難しいため、ちょっとしたゲームによって高校生の緊張をほぐそうとしている。



★第1ステージの様子である。高校生が4～5人に対して大学生が1人という割合で構成したグループが体育館の各所に陣取っている。「今日の朝ごはん何食べた?」といった極めて身近な話題から入り、「好きな歌手」の話などで盛り上げ、次第に「本題」に入っていく。「将来なりたいものってあるの?」とか「目標に向かって努力はしてる?」などと語りかけ、「今の自分」を確認させる。



★第2ステージの様子である。大学生が自分の体験を語るのであるが、高校生は関心のある人を選んで話を聞くことになっている。人気の高い大学生には多くの高校生が集まるが、1人しか来ないという場合もある。たくさん集めれば良いというわけではなく、少人数の方がじっくりと話ができるといういい面もある。



★大学生はそれぞれのスタイルで「語り」を行う。座って行う者、立って行う者、小道具を持って来る場合もあるが、多くの場合はスケッチブックに書いたキーワードを見せながら話を進めていく。この学生は高校時代に所属していた野球部での体験を話している。「3年生の夏の甲子園予選の前にレギュラーから外されてしまったが、グランドマネージャーとして頑張った」という話に高校生はひきつけられている。



★この学生は、以前は引っ込み思案だったが、手話サークルでのボランティア活動を通して明るく活発になったという。「私はボランティア活動することによってこんな風に変われたよ」と話していた。高校生は熱心に耳を傾けている。



★第3ステージの様子である。高校生は第1ステージで話した大学生の所に戻って、大学生と一緒にこれからの自分の夢や将来の目標を考えたり、それに向けて努力すべきことを考えたりする。大学生は様々な話をしながら高校生の意欲ややる気を引き出し、「今日から出来ることを1つ見つけよう」と具体的な行動を促す。

高校生の表情も大学生の表情も、とても生き生きしている。ワークショップに参加する大学生の数は、その学校の規模によって異なる。大畑校舎の場合は、高校生の人数がおおよそ40人ということで大学生は9人であったが、200人規模の高校では、大学生50人程が必要となる。

今回、田名部高校大畑校舎と連動させて、大間高校でもワークショップを実施した。地理的、時間的な制約があるため、大学生にとっては2泊3日の「ワークショップ・ツアー」ということになった。「下北自然の家」に泊まり、初日の午後大畑校舎で「カタリバ」を、翌日の午前中に「アシノコ」を実施した。引き続いて大間高校において同様に「カタリバ」と「アシノコ」を実施するという強行軍であった。

ところで、これらの活動は、大学生にとって完全なボランティア活動である。当然ながら謝金は一切支払われない。大畑・大間ツアーでは、食費や宿泊費などの8,000円ほどが自己負担である。

#### (4) ワークショップ「アシノコ」の実際

次に「アシノコ」と呼ばれるワークショップを紹介しよう。前日の体育館から場所を図書室に移しての実施であった。「カタリバ」に比べると、若干堅い感じのワークショップで、内容も高校生自身が「考える」ことが多く、少し難しいワークショップである。





★写真では、高校生が自分の夢の実現に向けて「具体的に行動すること」をカードに記入している。これは、前日の「カタリバ」で大学生と一緒に考えて自分で決めたことである。1枚のカードに1項目を記入する。1人が5枚のカードを書き、それらを集めてシャッフルしたあと、各人に5枚ずつ配布する。各メンバーは、誰が記入したかはわからない5枚のカードを手にすることになる。



★ワークショップ「アシノコ」はトランプゲームに似ている。1人が場に出したカードに、他のメンバーは、自分の手元にあるカードの中から、内容が感覚的に似ているものがあれば場に出す。トランプを例にすれば、誰かがダイヤを出したら自分もダイヤのカードを出すというように、数字の「3」を誰かが出したら次は「4」や「5」というように出していく。



★グルーピングされたカード群に、内容を代表する「表札」を考える作業を行う。これを繰り返すことによって構造化していくのである。KJ法と同様のラベルワークであるが、集団でしかもゲーム感覚で楽しみながらできるのが特徴である。



★次の段階では、模造紙の上で空間配置と呼ばれる作業を進めていく。

ワークショップ「アシノコ」は3時間近い時間を要するが、今回の大畑校舎での実施においては、最後まで集中力が切れることなく持続していた。



★写真では、グループごとにまとめたものの発表会を行っているところである。顔の表情から雰囲気を感じ取ることができるのではないだろうか。

大学生も高校生も「やったな」という表情をしている。ワークショップ「アシノコ」は、本音を引き出し、集中して深い議論をするための仕掛けでもある。ただ単に「討論しましょう」では、3時間も同じテーマについて集中して取り組むことはほぼ不可能であろう。



★高校生と年齢の近い大学生だからこそうまくいくという部分大きい。

高校生たちと大学生がハイタッチをして別れの「挨拶」をしているところである。大畑高校の先生に言わせると、「普段は人見知りしてあまり心を開かない高校生だ」と言うことであったが、実際には、最後にはこのようにうち解け、大きな盛り上がりと一体感を持つことができた。

## (5) 大学生研修について

ワークショップへの参加にあたって、大学生は研修を受けることになっている。その中で最も基本的なものが「コミュニケーション」についての研修である。ワークショップは高校生とのコミュニケーションの上に成り立つものであることから、この研修を欠かすことはできない。コミュニケーションは「聞く」と「話す」で構成されるが、どちらかというところ「話す」ことに苦手意識を持つ人が多い。「話すことがうまく出来なくてコミュニケーションが取れない」という話をよく聞く。しかし、コミュニケーションにおける基本は「聞く」の方であり、「聞く」のスキルを上げることが非常に重要である。誰にとっても話を聞いてくれる人はありがたいもので、自分の話を真剣に聞いてくれる人に出会うと、自然に話したくなるものである。そのような中から信頼関係が生まれるのである。「自分が聞きたいことではなく、相手が話したいことを心を込めて聞く」という態度が、良いコミュニケーションの基本である。

大学生研修において、コミュニケーションに引き続いて実施しているのが「コーチング」の研修である。コーチングはビジネス分野で脚光を浴びているもので、会話を通して相手の中から答えを引き出して行動を促すスキルである。例えば、「こんな点数ではしょうがないだろう。勉強しろ！」ではなく、「この点数でいいのかな。どうしたら良いと思う？」という具合である。命令や指示ではなく、自分で答を探させるのである。



そうすることによって、自発的に「こうしよう!」という意志を引き出すのである。スポーツにおいても、一方的に指示を出すのではなく、どこを伸ばせば良いのか、何を克服すれば良いのかを本人に気づかせるのがレベルの高いコーチだといわれている。

「カタリバ」において体験談を話す学生に対しては、別途プレゼンテーションの研修を実施している。また、「アシノコ」に対しては別の研修が用意されている。更に、ワークショップ実施の1週間前には「事前リハーサル」、会場入りしてから「当日リハーサル」、事後には「振り返り」が行われる。それぞれ2～4時間ほどであり、トータルすると15～20時間ほどの研修となる。大学生にとっては、かなりきついと思われるが、「この大変さが良い」と彼らは言う。昨今、楽なものを求める若者が多いと言われるが、一方で、自分に負荷をかけて自分を磨こうとしている若者もたくさんいるということであり、嬉しく頼もしく思う。

受講無料

（こんなあなたにピッタリの講座です。）

- 相手の心に響く話をうたえたい
- 相手の心を強く動かしたい
- 円滑な人間関係を構築したい

●講座内容  
・コミュニケーションの基礎と演習（3時間）  
・コーチングの基礎と演習（3時間）

●主催：青森県教育委員会 ●協賛：弘前大学弘前大学教育研究センター

大学生のための  
**コミュニケーション  
コーチング上達講座**  
実践的!!  
社会で役立つ!!

## V. ナナメの関係－高大連携の新しい形

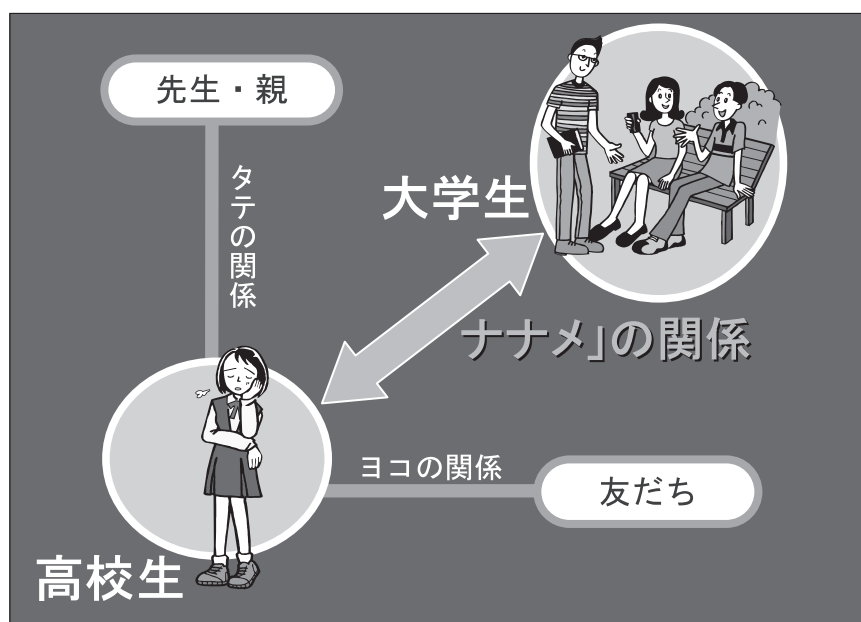
若者が夢を描きそれを実現しようとするとき、本人の努力は勿論であるが、周囲のサポートが非常に重要である。高校生や大学生のキャリア形成については、様々な側面があるが、今回紹介した事例のような場合には、高校と大学が連携することが極めて有効であると思われる。

高大連携には様々な形がある。初期のころは「大学説明会」や「オープンキャンパス」など、大学から高校への事務レベルのアプローチが主流であった。次の段階になると「出前講義」や「体験講義」などが盛んに行われるようになり、教員の関わりが中心になった。さて、これからのことであるが、高校生と大学生が直接的に関わる形も考えられるのではないだろうか。

ここで注目したいのが「ナナメの関係」である。高校生を中心に考えると、親や先生といった「タテの関係」は、経験などが豊富で、様々な知識や示唆、アドバイスを与えてくれるが、「ちょっと煙たくて、なんとなく…」という存在である。一方、「ヨコの関係」である友だちは、残念ながら自分と同程度の経験や知識しか持っていない。そこで、「ナナメの関係」である。高校生にとっての大学生は、年齢が近いから親近感があって、少し年

上だから頼もしく、しかも他人だから甘えない…という絶好のポジションにある。

先生や親が「本気出せ」と言っても素直には聞いてくれない。「目標を持て」「行動を起こせ」というアドバイスも届かない。ところが、同じことを大学生が言うとその響き方が違う。正に「ナナメの関係」の威力である。確かに、大学生は経験が浅く、的確なアドバイスを与えるということにおいては力不足である。しかし、高校生に働きかけ、きっかけを与えるという場面においては驚異的な力を発揮することは事実だ。若さや年齢の近さが持つ力を、ある意味で正当に認めるべきであろう。



## Ⅵ. 結び

若者のキャリア形成はいつの時代においても重要であるが、社会が大きく変化し続ける今、特に大きな意味を持っている。本人の努力に加えて、周囲の適切なサポートが必要である。特に教育関係者は、「学問」だけではなく「キャリア形成」にもっと目を向けるべきだ。将来を担う若者を逞しく育てるために、「高大連携」の新しい方向性を模索することを提案したい。

この小論は、平成20年10月に「明日の教育を考える」というテーマで行った講演をもとに、この間の実践をふまえてとりまとめたものである。過日ながら、発表の機会をあたえていただいたことに感謝したい。

## Ⅱ. 事 業 報 告

## 1. 生涯学習教育研究センター主催・共催事業

### (1) 公開講座

| 名称・開催日                                                                                                                                                                                 | 講 師                                                                                                                                             | 内 容                                                                                                                    |              | 会 場                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------------|
| <b>公開講座</b><br><b>「ピアノ指導者のためのブラッシュアップ講座」</b><br><br>8月7日（木）<br>チェルニー40番・50番<br>練習曲集<br>ベートーベンのピアノ・ソナタ<br><br>8月8日（金）<br>ショパン『練習曲集<br>作品10、作品25』<br>ロマン派のピアノ作品<br><br>時間 10：00～15：00    | 生涯学習教育研究センター長・教育学部教授<br><b>浅 野 清</b>                                                                                                            | ピアノ学習に欠かせないチェルニーやショパンの練習曲。これらの作品の目的をもう一度見直した上で、技術面から楽曲との関連を探った。                                                        |              | 教育学部<br>ピアノ室              |
|                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                 | 対象・参加費                                                                                                                 | 主 催          | 受講者                       |
|                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                 | ピアノ指導者及び学習者・一般<br>4,000円                                                                                               | 生涯学習教育研究センター | 20名                       |
| <b>公開講座</b><br><b>「日本のうたを歌おう」</b><br><br>8月30日（土） 唱歌<br><br>9月6日（土） 童謡<br><br>9月13日（土） 童謡<br><br>時間 10：00～12：00                                                                        | 教育学部 教授<br><b>吉 田 孝</b><br><br>教育学部 准教授<br><b>杉 原 かおり</b>                                                                                       | 美しい詩や言葉の響き、そして何よりも心を打つ旋律の『童謡』や『唱歌』を、参加者全員で歌いました。詩の内容、表現・唱法について専門家が指導しました。子供の頃に歌った思い出の歌を親子で、あるいは友人と一緒に歌い、より深い感動を味わいました。 |              | 弘前大学創立50周年記念会館<br>みちのくホール |
|                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                 | 対象・参加費                                                                                                                 | 主 催          | 受講者                       |
|                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                 | 一般<br>3,000円                                                                                                           | 生涯学習教育研究センター | 59名                       |
| <b>公開講座</b><br><b>「地域の課題を考え、地域について学び、行動しよう」</b><br><br>9月6日（土）<br>①生きがいに満ちた生活とはーボランティア活動のすすめー<br><br>②資源の有効利用と市民参加<br><br>9月13日（土）<br>①身につけておきたいリハビリの知識と技能<br><br>②今、いろいろな農業機械が開発されている | 生涯学習教育研究センター 准教授<br><b>藤 田 昇 治</b><br><br>大学院理工学研究科 教授<br><b>鶴 見 實</b><br><br>大学院保健学研究科 助手<br><b>赤 池 あらた</b><br><br>農学生命科学部 准教授<br><b>張 樹 槐</b> | 私たちの生活を取り巻く問題を、地域が直面している様々な問題、さらに地球規模の問題と関連づけながら捉え直し、解決の方向を考えてみましょう。また、日常生活を豊かにするための知識・技能を学びました。                       |              | つがる市生涯学習交流センター・弘前大学等      |
|                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                 |                                                                                                                        |              |                           |
|                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                 |                                                                                                                        |              |                           |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                         |                                    |                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>9月20日（土）</p> <p>①暮らしの中の経済学の基礎知識</p> <p>②地球温暖化を考える</p> <p>9月27日（土）</p> <p>①農業は環境を保全する</p> <p>②津軽地域の縄文文化</p> <p>時間 ①13：10～14：40<br/>②14：50～16：20</p>                                                                                                                                                         | <p>人文学部 准教授<br/><b>福 田 進 治</b></p> <p>生物共生教育センター<br/>准教授<br/><b>伊 藤 大 雄</b></p> <p>農学生命科学部 教授<br/><b>青 山 正 和</b></p> <p>人文学部 准教授<br/><b>関 根 達 人</b></p>                                               |                                                                                                                                                                                                                                                         |                                    |                                                                                                                                                                        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                       | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                                                                  | 主 催                                | 受講者                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                       | 一般<br>7,000円                                                                                                                                                                                                                                            | 生涯学習教育<br>研究センター<br>・つがる市教<br>育委員会 | 10名                                                                                                                                                                    |
| <p><b>公開講座</b><br/><b>「心と病」</b></p> <p>9月16日（火）</p> <p>自分でできる心の健康管理<br/>—心理学から健康について<br/>考えてみませんか—</p> <p>9月22日（月）</p> <p>心療内科と心身症</p> <p>9月29日（月）</p> <p>過食と嘔吐<br/>—心理的意味—</p> <p>10月6日（月）</p> <p>心の病気とその対処<br/>—うつ病—</p> <p>10月14日（火）</p> <p>よい眠り<br/>—心からくる睡眠障害・<br/>病気としての睡眠障害—</p> <p>時間 18：00～20：00</p> | <p>保健管理センター 講師<br/><b>高 橋 恵 子</b></p> <p>保健管理センター 所長<br/><b>佐々木 大 輔</b></p> <p>医学部附属病院<br/>講師<br/><b>栗 林 理 人</b></p> <p>大学院医学研究科<br/>助教<br/><b>佐 藤 研</b></p> <p>青森芙蓉会病院<br/>医師<br/><b>村 上 拓 也</b></p> |                                                                                                                                                                                                                                                         |                                    | <p>近年急増している心の病気<br/>について学び、また心と体の<br/>関わりを中心に、ストレスに<br/>ついて、死亡率の高い脳疾患<br/>について、そして生活習慣病<br/>について理解し、具体的症例<br/>を交えて、その対処や予防法<br/>について学びました。</p> <p>青森市中央市<br/>民センター</p> |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                       | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                                                                  | 主 催                                | 受講者                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                       | 一般<br>5,000円                                                                                                                                                                                                                                            | 弘前大学・青<br>森市                       | 55名                                                                                                                                                                    |
| <p><b>公開講座</b><br/><b>「身近な問題を考える」</b></p> <p>10月1日（水）</p> <p>激増する輸入食品と<br/>その安全性<br/>—身近な食品の問題—</p> <p>10月8日（水）</p> <p>脳の病気について考える</p>                                                                                                                                                                        | <p>農学生命科学部<br/>教授<br/><b>宇 野 忠 義</b></p> <p>医学部長・大学院医<br/>学研究科長・大学院<br/>医学研究科 教授<br/><b>佐 藤 敬</b></p>                                                                                                 | <p>近年の科学技術の飛躍的な<br/>発展は、私たちを取り巻く環<br/>境に著しい変化をもたらしま<br/>した。目まぐるしく変動する<br/>時代において人間性豊かな生<br/>活を営むためには、政治的・<br/>社会的・医学的な情勢を把握<br/>し、様々な視点からの的確に諸<br/>問題について考える必要があ<br/>ります。現在起きている問題<br/>や、これから起こりうる問題<br/>について学習しました。</p> <p>三沢市公会堂<br/>3階<br/>第8集会室</p> |                                    |                                                                                                                                                                        |

|                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                    |                                                                                                                                    |                                   |                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 10月15日（水）<br>スペインの歴史と文化<br><br>10月22日（水）<br>裁判員制度について<br>理解を深めよう<br><br>時間 18：30～20：30                                                                                                              | 人文学部 准教授<br><b>足立孝</b><br><br>人文学部 准教授<br><b>飯考行</b>                                               | 対象・参加費                                                                                                                             | 主 催                               | 受講者             |
|                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                    | 一般<br>4,000円                                                                                                                       | 弘前大学・三<br>沢市教育委員<br>会             | 14名             |
| <b>公開講座</b><br><b>「健康で生きがいに<br/>みちた生活をめざして」</b><br><br>10月5日（日）<br>生きがいに満ちた生活とは<br>—ボランティア活動のすすめ—<br><br>健康と運動<br><br>時間 13：00～16：20                                                                | 生涯学習教育研究セ<br>ンター 准教授<br><b>藤田昇治</b><br><br>教育学部 教授<br><b>戸塚学</b>                                   | 豊かな生活をおくる上で、「心」や「身体」の「健康」は最も基本となるものです。社会生活をおくる中での「生きがい」について考え、健康を保持するための気軽にできる運動について実践的に学びました。                                     |                                   | 鶴田町公民館          |
|                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                    | 対象・参加費                                                                                                                             | 主 催                               | 受講者             |
|                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                    | 一般<br>2,000円                                                                                                                       | 生涯学習教育<br>研究センター<br>・鶴田町教育<br>委員会 | 38名             |
| <b>公開講座</b><br><b>「アジア・オセアニアに<br/>飛び出そう」</b><br><br>11月29日（土）<br>中国の現在、そして<br>これからを考える<br><br>12月6日（土）<br>パプアニューギニアの現在、<br>そしてこれからを考える<br><br>12月13日（土）<br>日本とタイ<br>その文化の違いは？<br><br>時間 13：30～15：30 | 人文学部 准教授<br><b>城本るみ</b><br><br>国際交流センター<br>教授<br><b>大西純</b><br><br>国際交流センター<br>准教授<br><b>諏訪淳一郎</b> | 「グローバル化」が進行する中で、アジアやオセアニア諸国との交流・連携が求められています。著しく経済成長を遂げながらも様々な問題を抱えている中国、日本への食料の輸出も多く王制を維持しているタイ、温暖化の影響が危惧されるパプアニューギニアについて理解を深めました。 |                                   | 弘前大学八戸<br>サテライト |
|                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                    | 対象・参加費                                                                                                                             | 主 催                               | 受講者             |
|                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                    | 一般<br>3,000円                                                                                                                       | 生涯学習教育<br>研究センター                  | 延べ57名           |

## (2) 講演会・セミナー等

| 名称・開催日                                                                                                                                                            | 講 師                                                                                         | 内 容                                                                                                                                                                                              | 会 場                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| <b>講演会</b><br><b>「目で見て学ぼう、生活習慣病」</b><br><br>7月18日（金）<br>わかりやすい生活習慣病<br><br>健康チェックの実際<br><br>時間 18:00～21:00                                                        | 大学院医学研究科 教授<br><b>中 路 重 之</b><br><br>大学院医学研究科 准教授<br><b>梅 田 孝</b>                           | 生活習慣病は現代人の最大の健康問題のひとつです。これを克服することが「健康で長生き」につながります。本講演会では生活習慣病の実態と予防につき実演を交えながら講演・講習を行いました。<br>参加者に実際に健康測定してもらい、そのデータを手に講演を聞いていただきました。測定内容は、身長・体重、動脈硬化度（四肢血圧測定、頸動脈エコー検査）、骨密度、体脂肪率、肺機能、腹部脂肪測定などです。 | 西目屋村中央公民館                                |
|                                                                                                                                                                   |                                                                                             | 対象・参加費                                                                                                                                                                                           | 主 催                                      |
|                                                                                                                                                                   |                                                                                             | 一般<br>無料                                                                                                                                                                                         | 生涯学習教育研究センター・西目屋村・弘前大学大学院医学研究科附属社会医学センター |
| <b>生涯学習連続講演会</b><br><b>「元気な日本を支える制度」</b><br><br>7月18日（金）<br>少子高齢化社会の現状とこれから<br><br>9月19日（金）<br>健康とスポーツ<br><br>10月17日（金）<br>日本の社会保障制度の現状と問題点<br><br>時間 18:30～20:30 | 人文学部 准教授<br><b>李 永 俊</b><br><br>教育学部 教授<br><b>本 間 正 行</b><br><br>人文学部 准教授<br><b>紺 屋 博 昭</b> | 「少子高齢社会」に移行する中で、個人の生活や地域、地方自治体をめぐって様々な問題が深刻化してきています。改めて、「少子高齢社会」といわれる今日の社会の実態・課題や日本の社会保障制度について学び、ちょっとした工夫でできる健康保持のための運動について理解を深めました。                                                             | 下北文化会館（むつ市）                              |
|                                                                                                                                                                   |                                                                                             | 対象・参加費                                                                                                                                                                                           | 主 催                                      |
|                                                                                                                                                                   |                                                                                             | 一般<br>無料                                                                                                                                                                                         | 生涯学習教育研究センター・むつ市教育委員会                    |
| <b>健康医学講座</b><br><b>「糖尿病のすべて」</b><br><b>～糖尿病にならないために、</b><br><b>糖尿病を治すために～</b><br><br>9月12日（金）<br><br>時間 13:30～15:00                                              | 医学部附属病院 講師<br><b>小 川 吉 司</b>                                                                | 糖尿病は高血圧が続くと発症します。ここでは、血糖値を調節するからだの仕組みについて解説し、さらに、高血糖を予防するために気をつけること、また、糖尿病になってしまった場合の治療について説明しました。                                                                                               | 五戸町立公民館小ホール                              |

|                                                                                                                                                                          |                                                                           |                                                                                                                                                                                                       |                                                                         |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------|
|                                                                                                                                                                          | 生涯学習教育研究センター 准教授<br>菅 世智子                                                 | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                | 主 催                                                                     | 受講者   |
|                                                                                                                                                                          |                                                                           | 一般<br>無料                                                                                                                                                                                              | 生涯学習教育<br>研究センター<br>・五戸町教育<br>委員会                                       | 80名   |
| <b>大学地域連携セミナー</b><br><br>10月4日（土）<br>水田地帯の生き物の暮らしと<br>危機<br><br>時間 10：00～11：30                                                                                           | 農学生命科学部<br>教授<br>佐 原 雄 二                                                  | 平川市の尾上総合高校で、<br>生徒に“一日大学生”となっ<br>て多ジャンルにわたり知識を<br>深めてもらう目的で開催した。                                                                                                                                      | 尾上総合高等<br>学校                                                            |       |
|                                                                                                                                                                          |                                                                           | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                | 主 催                                                                     | 受講者   |
|                                                                                                                                                                          |                                                                           | 学生<br>無料                                                                                                                                                                                              | 生涯学習教育<br>研究センター<br>・あおもり県<br>民カレッジ                                     | 20名   |
| <b>生涯学習連続講演会<br/>「明日の教育を考える」</b><br><br>10月7日（火）<br>理科離れへの対応を考える<br>ー化学を学ぶおもしろさー<br><br>10月14日（火）<br>今、若者に必要なこと<br>ー高大連携により<br>キャリア形成を促進しようー<br><br>時間 18：30～20：00       | 教育学部 准教授<br>長 南 幸 安<br><br>青森県教育委員会<br>生涯学習課<br>学校地域連携推進監<br>坂 本 徹        | 今日、「教育問題」が様々<br>な角度から議論されています。<br>とりわけ「学力問題」と<br>の関連で「理科離れ」が取り<br>ざたされたり、児童生徒に対<br>する「キャリア教育」の重要<br>性が指摘されています。こう<br>した問題を受講生と一緒に考<br>えました。<br>八戸会場では、テレビ会議<br>システムを利用し、弘前での<br>講演をリアルタイムで受信し<br>ました。 | （弘前会場）<br>弘前大学医学<br>部コミュニケー<br>ションセンター<br><br>（八戸会場）<br>弘前大学八戸<br>サテライト |       |
|                                                                                                                                                                          |                                                                           | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                | 主 催                                                                     | 受講者   |
|                                                                                                                                                                          |                                                                           | 教育関係者・<br>一般<br>無料                                                                                                                                                                                    | 生涯学習教育<br>研究センター                                                        | 31名   |
| <b>生涯学習連続講演会<br/>「教育問題をともに考える」</b><br><br>11月6日（木）<br>読書のすすめ<br>ー本と出会う<br>さまざまな読書法ー<br><br>11月13日（木）<br>子供の生活リズムを整える<br><br>11月20日（木）<br>科学する心を育てる<br><br>時間 18：30～20：30 | 教育学部 教授<br>児 玉 忠<br><br>大学院保健学研究科 講師<br>古 川 照 美<br><br>教育学部 教授<br>大 高 明 史 | 今日、教育をめぐる、「活<br>字離れ」や「理科離れ」、「生<br>活の乱れ」など様々な問題が<br>指摘されています。こうした<br>問題に、幼稚園・保育所・学<br>校などの教育関係者と地域住<br>民が一緒に考えました。                                                                                     | 北通り総合文<br>化センター<br>「ウイング」<br>（大間町）                                      |       |
|                                                                                                                                                                          |                                                                           | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                | 主 催                                                                     | 受講者   |
|                                                                                                                                                                          |                                                                           | 一般<br>無料                                                                                                                                                                                              | 生涯学習教育<br>研究センター<br>・大間町教育<br>委員会                                       | 延べ80名 |



| 名称・開催日                                                                                                                                     | 講 師                                                                        | 内 容                                                                                                                                                      | 会 場                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| <b>弘前大学生涯学習連続講演会<br/>「健康と医療」</b><br><br>1月22日（木）<br>「介護のため」の<br>ちょっとしたお話<br><br>2月26日（木）<br>健康で長生きするためには<br>どうすればよいか<br><br>時間 18：30～20：30 | 大学院保健学研究科<br>准教授<br><b>木 立 るり子</b><br><br>大学院医学研究科<br>教授<br><b>中 路 重 之</b> | 健康や医療への理解を深めるため、ガンや身近な病気について学びました。                                                                                                                       | 風間浦村総合福祉センター「げんきかん」                                         |
|                                                                                                                                            |                                                                            | 対象・参加費                                                                                                                                                   | 主 催                                                         |
|                                                                                                                                            |                                                                            | 一般<br>無料                                                                                                                                                 | 生涯学習教育研究センター・風間浦村教育委員会                                      |
| <b>生涯学習講演会</b><br><br>2月26日（木）<br>食品廃棄物の<br>リサイクルシステム<br><br>時間 18：30～20：00                                                                | 農学生命科学部<br>准教授<br><b>泉 谷 眞 美</b>                                           | 環境問題や資源・エネルギー問題は様々な形で現れています。地球的規模で考えながら地域で具体的に行動することが求められています。食品廃棄物のリサイクルを中心に、環境問題や資源・エネルギー問題について理解を深めました。<br>弘前会場では、テレビ会議システムを利用し、八戸での講演をリアルタイムで受信しました。 | （弘前会場）<br>弘前大学医学部コミュニケーションセンター<br><br>（八戸会場）<br>弘前大学八戸サテライト |
|                                                                                                                                            |                                                                            | 対象・参加費                                                                                                                                                   | 主 催                                                         |
|                                                                                                                                            |                                                                            | 一般<br>無料                                                                                                                                                 | 生涯学習教育研究センター                                                |

### (3) 受託事業

| 名称・開催日                                                                                                                                    | 講 師                                                                                                                                            | 内 容                                                                                                                                                  | 会 場              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <b>あおもりツーリズム人づくり大学「はやて」</b><br><br>6月26日（木）<br>イントロダクション<br>～観光による地域振興～<br><br>7月3日（木）<br>航空機におけるホスピタリティ<br><br>7月10日（木）<br>観光ガイドのホスピタリティ | 人文学部 准教授<br><b>森 樹 男</b><br><br>(株)日本航空インターナショナル客室サービス企画部客室人財サポート室先任キャピンスーパーバイザー<br><b>下 出 久 子</b><br><br>弘前観光ボランティアガイドの会 会長<br><b>中 谷 敏 右</b> | 新幹線が八戸まで開通したことによる経済効果は、観光をはじめ地域産業と様々な結びついています。2010年の東北新幹線青森駅開業を控え、今後の地域活性化、企業・個人としてのビジネスチャンス、行政としての課題なども視野に入れながら、豊富な地域資源を活用したふるさとプロデュース能力の向上をめざしました。 | 弘前大学人文学部4階多目的ホール |
|                                                                                                                                           |                                                                                                                                                |                                                                                                                                                      |                  |
|                                                                                                                                           |                                                                                                                                                |                                                                                                                                                      |                  |

|                                          |                                                              |                                    |                          |     |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------|--------------------------|-----|
| 7月17日（木）<br>地域の資源を生かした観光開発               | 教育学部 教授<br>石 川 善 朗                                           |                                    |                          |     |
| 7月24日（木）<br>観光振興を行う為に必要な問題検討法            | NPO法人日本ツーリズムオペレーション理事長・(株)プロフェッショナルネットワーク事業開発部 部長<br>高 橋 利友起 |                                    |                          |     |
| 8月28日（木）<br>黒川温泉発展のあゆみと今後の展望             | 南小国町観光協会 会長・<br>(有)新明館 代表取締役<br>後 藤 健 三                      |                                    |                          |     |
| 9月4日（木）<br>地域でがんばろう                      | 一級建築士事務所<br>(有)クレイドル<br>代表取締役<br>高 樋 忍                       |                                    |                          |     |
| 9月11日（木）<br>心で感じ、人と交わる新しい旅のスタイル「弘前感交劇場」  | 弘前市商工観光部観光物産課<br>課長補佐<br>桜 田 宏                               |                                    |                          |     |
| 9月18日（木）<br>田舎を観光する？<br>～グリーンツーリズム～      | 農学生命科学部<br>准教授<br>藤 崎 浩 幸                                    | 対象・参加費                             | 主 催                      | 受講者 |
| 9月25日（木）<br>アンサンブルヒーローは誰？                | J R 東日本秋田支社<br>営業部長<br>石 塚 友 寛                               | 観光業関係者<br>・一般・学生<br>学生<br>5,000円   | 生涯学習教育<br>研究センター<br>・青森県 | 24名 |
| 10月30日（木）<br>成果発表会<br><br>時間 18：30～20：30 | NPO法人日本ツーリズムオペレーション理事長・(株)プロフェッショナルネットワーク事業開発部 部長<br>高 橋 利友起 | 一般<br>10,000円<br><br>法人<br>15,000円 |                          |     |

#### (4) 研修等

| 名称・開催日                                                                                              | 講 師                                                              | 内 容                                                                                                                   | 会 場                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 平成20年度公民館職員研修会<br>「生涯学習とボランティア」<br><br>6月20日（金）<br>時間 10：00～12：00<br><br>6月27日（金）<br>時間 10：00～14：30 | 生涯学習教育研究センター 准教授<br>藤 田 昇 治<br><br>岩手大学地域連携推進センター 准教授<br>藤 田 公仁子 | 地域の中で公民館の果たすべき役割を考えたとき、住民のボランティア活動は極めて重要なものです。<br>講座で「ボランティア養成」を行う意義や、公民館の事業を進めていくため様々な場面で住民にボランティアで協力してもらう大切さを考えました。 | 弘前市総合学習センター2階大会議室<br>弘前大学創立50周年記念会館会議室 |

|  |  |                                             |                       |       |
|--|--|---------------------------------------------|-----------------------|-------|
|  |  | 対象・参加費                                      | 主 催                   | 受講者   |
|  |  | 公民館（中央・岩木館・相馬館・地区公民館）、生涯学習課及び学術情報館の生涯学習関係職員 | 生涯学習教育研究センター・弘前市学習情報館 | 延べ48名 |

## (5) ホームページ On-Line公開講座

本センターの役割の一つである、弘前大学をより広く市民に知ってもらうことを目的として、ホームページの充実を図り、これまでのページに以下の項目を追加した。

### ○シリーズ3「市民のための老年病学」

|      |             |                 |          |
|------|-------------|-----------------|----------|
| 第39回 | 胃がん         | (医学部外科学第二講座     | 川 崎 仁 司) |
| 第40回 | 大腸がん        | (医学部内科学第一講座     | 福 田 眞 作) |
| 第41回 | 肝臓がん        | (医学部外科学第二講座     | 袴 田 健 一) |
| 第42回 | 皮膚のがん       | (医学部附属病院皮膚科     | 金 子 高 英) |
| 第43回 | 膀胱がん        | (医学部附属病院泌尿器科学講座 | 米 山 高 弘) |
| 第44回 | 前立腺がん       | (医学部附属病院泌尿器科学講座 | 古 家 琢 也) |
| 第45回 | 甲状腺がん       | (医学部外科学第二講座     | 小田桐 弘 毅) |
| 第46回 | 乳がん         | (弘前市立病院外科医長     | 長谷川 善 枝) |
| 第47回 | 子宮がん・卵巣がん   | (医学部産科婦人科学講座    | 横 山 良 仁) |
| 第48回 | 口腔内のがん      | (医学部歯科口腔外科学講座   | 小 林 恒)   |
| 第49回 | 高齢者に多い骨のがん  | (国立病院機構弘前病院整形外科 | 柿 崎 寛)   |
| 第50回 | 高齢者に多い血液のがん | (医学部附属病院輸血部     | 玉 井 佳 子) |

## ○公開講座

「ピアノ指導者のためのブラッシュアップ講座」



「日本のうたを歌おう」



「アジア・オセアニアに飛び出そう」



「健康で生きがいにみちた生活をめざして」



## ○テレビ会議システムを利用した講演会

「明日の教育を考える」(弘前会場)



「明日の教育を考える」(八戸会場)





## ○あおもりツーリズム人づくり大学「はやて」

「センター長による挨拶」



「航空機におけるホスピタリティ」



「観光ガイドのホスピタリティ」



「観光振興を行う為に必要な問題検討法」



「黒川温泉発展のあゆみと今後の展望」



「アンサンブヒーローは誰？」



## 2. 学部・大学院等の主催事業など

### (1) 人文学部

| 名称・開催日                                                                           | 講 師                   | 内 容                                                                       |                       | 会 場                   |
|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| <b>亀ヶ岡文化研究センター<br/>ミニ特別展<br/>成田コレクションにみる縄文の<br/>造形</b><br><br>10月1日（水）～10月31日（金） |                       | 亀ヶ岡文化の遺物を中心に、それに先行する縄文時代中期・後期の遺物も展示する。                                    |                       | 人文学部附属<br>亀ヶ岡文化研究センター |
|                                                                                  |                       | 対象・参加費                                                                    | 主 催                   | 受講者                   |
|                                                                                  |                       | 一般<br>無料                                                                  | 人文学部附属<br>亀ヶ岡文化研究センター | 1300名                 |
| <b>第4回<br/>雇用政策研究センター<br/>フォーラム<br/>『青森県に生きる若者たち』</b><br><br>10月17日（金）           | 地域の専門家他               | センターにおける研究成果を公開し、地域問題の専門家などと意見交換を行う。                                      |                       | 弘前市                   |
|                                                                                  |                       | 対象・参加費                                                                    | 主 催                   | 受講者                   |
|                                                                                  |                       | 一般<br>無料                                                                  | 人文学部附属<br>雇用政策研究センター  | 200名                  |
| <b>シンポジウム<br/>「ふるさとがなくなる？」</b><br><br>3月13日（金）                                   | 人文学部 准教授<br>山 下 祐 介 他 | 過疎地域の限界集落問題についてシンポジウムを行った。                                                |                       | 弘前市立観光館               |
|                                                                                  |                       | 対象・参加費                                                                    | 主 催                   | 受講者                   |
|                                                                                  |                       | 一般<br>無料                                                                  | 人文学部                  | 60名                   |
| <b>津軽学公開講座<br/>ジャワメク磁場「津軽」その深層</b><br><br>10月13日（月）                              | 人文学部 教授<br>作 道 信 介 他  | 「津軽学研究」の成果を地域に公表する。<br><br>第1部<br>津軽、近代化のダイナミズム<br><br>第2部<br>うた心湧く磁場「津軽」 |                       | 弘前大学人文学部校舎<br>多目的ホール  |
|                                                                                  |                       | 対象・参加費                                                                    | 主 催                   | 受講者                   |
|                                                                                  |                       | 一般<br>無料                                                                  | 人文学部                  | 100名                  |

## (2) 教育学部

| 名称・開催日                                                                                                                        | 講 師                                                       | 内 容                                                                                                                                                                                   | 会 場                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| <b>「中学校技術科の教員を対象とした電気のものづくり教材講座」</b><br><br>8月8日（金）<br><br>時間 10：00～12：30                                                     | 教育学部 准教授<br><b>櫻 田 安 志</b>                                | この講座では、中学校技術科の教員を対象として、テーブルタップを応用した電気のものづくり教材を作製します。さらに、作製した教材とコンピュータを用いて、基本的な電気計測を行ないます。受講者は、教材の作製、測定原理の理解、コンピュータによる計測、その他（応用の可能性に関する討議）を行なうことで、テーブルタップの教材としての新しい可能性について学習することになります。 | 教育学部電気実験室                                   |
|                                                                                                                               |                                                           | 対象・参加費                                                                                                                                                                                | 主 催                                         |
|                                                                                                                               |                                                           | 現職教員及び教育関係者<br><br>無料                                                                                                                                                                 | 教育学部<br><br>1名                              |
| <b>公開講座<br/>「Mostly Lecture」</b><br><b>ピアノ公開レッスン・</b><br><b>声楽公開レッスン</b><br><br>9月6日（土）<br><br>9月13日（土）<br><br>時間 13：00～15：00 | 教育学部 教授<br><b>浅 野 清</b><br><br>教育学部 准教授<br><b>杉 原 かおり</b> | 生涯学習として、また演奏表現の技術向上に向けて専門家のレッスンを受けることができます。将来は音楽の道を考えている若い人や現在指導者として活動している方に最適な講座です。音楽鑑賞のポイントをつかみ、音楽をもっと楽しみたいという愛好家も気軽にご参加ください。                                                       | 教育学部音楽棟                                     |
|                                                                                                                               |                                                           | 対象・参加費                                                                                                                                                                                | 主 催                                         |
|                                                                                                                               |                                                           | 一般（教育学部入学試験受験予定の者を除く）<br><br>2,000円                                                                                                                                                   | 教育学部附属国際音楽センター<br><br>20名<br><br>修了者<br>14名 |
| <b>「小学校英語教育：一つのアプローチ Story-Time English」</b><br><br>8月6日（水）<br><br>時間 10：00～15：00                                             | 教育学部 准教授<br>A.S.Rausch                                    | 小学校での英語カリキュラムにおける英語の物語をテーマとするものです。小学校英語教育のニーズと実際の状況の上で物語の利用方法を紹介します。内容は、(1)カリキュラム全体を物語で構成する方法；(2) 英語のインプットを増やすための物語の利用；(3) 物語を基本にした個別の                                                | 弘前大学青森サテライト教室                               |

|                                                                   |                            |                                                                                                                                                                                                                                     |      |     |
|-------------------------------------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|
|                                                                   |                            | アクティビティの活用。受講者は英語の技能は必要ありません。実際、物語の利用は英語に自信がない方が英語クラスを始めるための一つの方法です。                                                                                                                                                                |      |     |
|                                                                   |                            | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                                              | 主 催  | 受講者 |
|                                                                   |                            | 現職教員及び教育関係者<br>無料                                                                                                                                                                                                                   | 教育学部 | 7 名 |
| <b>「教師のためのノーベル化学賞入門」</b><br><br>8 月 7 日（木）<br><br>時間 10：00～15：00  | 教育学部 准教授<br><b>長 南 幸 安</b> | 2000年白川英樹氏、2001年野依良治氏、2002年田中耕一氏と日本の科学者が3年連続でノーベル化学賞を受賞しました。しかしその業績内容は「導電性高分子の発見と開発」「不斉触媒による水素化反応の研究」「生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発」と非常に難しくわかりにくいものです。そこで本講座では、これら日本人ノーベル化学賞受賞者の業績を中心に、簡単な解説講座を行います。目標としては児童・生徒にもわかりやすく伝えられるまでの理解を目指します。 |      |     |
|                                                                   |                            | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                                              | 主 催  | 受講者 |
|                                                                   |                            | 現職教員及び教育関係者<br>無料                                                                                                                                                                                                                   | 教育学部 | 5 名 |
| <b>「気候変動を地形と地層から読み解く」</b><br><br>8 月 1 日（金）<br><br>時間 10：00～15：00 | 教育学部 教授<br><b>鎌 田 耕太郎</b>  | 地球史の最近70万年は氷河期がたびたび訪れ、寒暖を繰り返してきたことがわかっています。この講座では寒暖の記録がどのようにして復元できたのかを紹介し、現在の地球温暖化現象の位置づけについて考えます。また八戸、上北地域にはみごとに段丘地形がみられますが、このような階段状の地形形成は、気候変動と地震に象徴される地殻変動の組み合わせでできます。身の回りの地形や地層から気候変動の痕跡を探り、環境の激変とたくましい人類の進化について学習します。          |      |     |
|                                                                   |                            | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                                              | 主 催  | 受講者 |
|                                                                   |                            | 現職教員及び教育関係者<br>無料                                                                                                                                                                                                                   | 教育学部 | 5 名 |



|                                                                           |                         | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                                                 | 主 催  | 受講者         |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------|
|                                                                           |                         | 現職教員及び<br>教育関係者<br>無料                                                                                                                                                                                                                  | 教育学部 | 4 名         |
| <b>「植物の形を見る<br/>ー栽培し、食べるためにー」</b><br><br>8 月 4 日（月）<br><br>時間 12：00～17：00 | 教育学部 教授<br><b>肥田野 豊</b> | 動物と比べて、植物の体の作り（体制）は一見単純であるにも関わらずわかりにくいところがあります。生長に伴って次第に複雑になっていきますが、その変化は昆虫などの変態とも違います。また、同じ種類の植物においても、季節的な変化や、個体間差が顕著です。しかし植物の体制にももちろん規則性があり、それを知ることは栽培や利用の場面も含めて重要なことと考えられます。この講座では、植物の主に地上部の基本構造であるシュートの概念に基づいて、植物、特に栽培植物の形を見ていきます。 |      | 弘前大学八戸サテライト |
|                                                                           |                         | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                                                 | 主 催  | 受講者         |
|                                                                           |                         | 現職教員及び<br>教育関係者<br>無料                                                                                                                                                                                                                  | 教育学部 | 7 名         |

### (3) 大学院医学研究科

| 名称・開催日                                                                                                                                                                               | 講 師                                                                                                                                                | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                           | 会 場              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <b>公開講座<br/>「健康情報の氾濫<br/>～まどわされないために～」</b><br><br>8 月 22 日（金）<br>緑内障とはどんな病気なのか<br><br>歯と口腔の健康<br><br>8 月 29 日（金）<br><br>皮膚の健康<br>ーあなたの皮膚は健康ですかー<br><br>傷の小さな手術<br><br>時間 18：30～20：30 | 医学部附属病院 助教<br><b>山 崎 仁 志</b><br><br>大学院医学研究科<br>教授<br><b>木 村 博 人</b><br><br>大学院医学研究科 助教<br><b>会 津 隆 幸</b><br><br>大学院医学研究科<br>准教授<br><b>吉 原 秀 一</b> | 昨今、テレビやインターネットで届けられる健康情報は大変多く、健康産業とも呼ばれるほど大きな市場をなしています。しかし、中には法外な価格の健康食品や美容関連製品、そして多くのダイエット法や薬物療法など、どれが適切な情報や製品なのかさっぱりわからないこともあります。そこで、身近な健康管理のうえでとても大切な「眼」「歯」「怪我」そして「皮膚」の健康情報を特集してみました。日頃戸惑いがちなこのような医療関連情報を、公開講座ではやさしく解説し、受講者の皆さんに正しい知識を持って頂きたいと思って企画いたしました。 | 医学部コミュニケーションセンター |

|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                    | 対象・参加費                                                                                               | 主 催           | 受講者                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|------------------------------------|
|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                    | 一般<br>無料                                                                                             | 大学院医学研究科広報委員会 | 8月22日(金)<br>74名<br>8月29日(金)<br>59名 |
| <b>平成20年度 弘前大学大学院医学研究科「健康・医療講演会」</b><br><br>11月22日(土)<br>がん細胞と戦うための基礎知識<br>がん治療は外来で！<br><br>11月22日(土)<br>あなたの乳房と命を乳がんで失わないために<br>もしも乳がんになってしまったら<br><br>時間 14:00～16:00 | 腫瘍内科学講座 助教<br><b>高 畑 武 功</b><br><br>三沢市立三沢病院<br>医療局長<br><b>棟 方 正 樹</b><br><br>消化器外科・乳腺外科・<br>甲状腺外科 講師<br><b>小田桐 弘 毅</b><br><br>弘前市立病院 乳腺<br>外科科長<br><b>長谷川 善 枝</b> | 弘前大学大学院医学研究科では、毎年、県内の医療機関等と協力し、学外公開講座「健康・医療講演会」を開催しております。今年度は、三沢市（共催：三沢市）及び弘前市（共催：弘前市立病院）において開催しました。 |               |                                    |
|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                    | 対象・参加費                                                                                               | 主 催           | 受講者                                |
|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                    | 一般<br>無料                                                                                             | 大学院医学研究科広報委員会 | 三沢市<br>160名<br><br>弘前市<br>80名      |

#### (4) 大学院保健学研究科

| 名称・開催日                        | 講 師                                                                | 内 容                                                                                                                     | 会 場                                                 |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| <b>糖尿病患者の運動の習慣化を目的とした健康教室</b> |                                                                    |                                                                                                                         |                                                     |
| 6月8日(日) 14:00～16:30           | 運動指導講師・NPO<br>法人サルート青森健康<br>運動指導士<br><b>奈良岡 匠</b>                  | 2型糖尿病患者の運動の習慣化および血糖コントロールの支援を目的とし、体験型運動教室（ウォーキング、ノルディックウォーキング[冬]）、他者との相互交流のためのグループワーク、セルフモニタリングを組み合わせた健康教室を月に1～2回開催します。 | 医学部体育館<br>保健学研究科<br>地域看護学実習室                        |
| 7月13日(日) 9:30～12:00           |                                                                    |                                                                                                                         |                                                     |
| 8月10日(日) 〃                    | 大学院保健学研究科 教授<br><b>山 辺 英 彰</b>                                     |                                                                                                                         |                                                     |
| 9月14日(日) 〃                    |                                                                    |                                                                                                                         |                                                     |
| 9月28日(日) 〃                    | 大学院保健学研究科 准教授<br><b>野 戸 結 花</b><br><b>井 瀧 千恵子</b>                  |                                                                                                                         |                                                     |
| 10月12日(日) 9:00～13:00          |                                                                    |                                                                                                                         |                                                     |
| 11月9日(日) 13:30～16:00          | 大学院保健学研究科 講師<br><b>川 崎 くみ子</b><br><b>北 宮 千 秋</b><br><b>富 澤 登志子</b> | 2型糖尿病患者・参加費無料                                                                                                           | 保健学研究科<br>すこやかコミュニティ支援センター生活習慣病フォローアップ部門<br><br>18名 |
| 11月30日(日) 〃                   |                                                                    |                                                                                                                         |                                                     |
| 12月21日(日) 〃                   | 大学院保健学研究科 助手<br><b>工 藤 う み</b><br><b>北 島 麻衣子</b><br><b>倉 内 静 香</b> |                                                                                                                         |                                                     |
| 1月25日(日) 〃                    |                                                                    |                                                                                                                         |                                                     |
| 2月22日(日) 〃                    | 教育学部 准教授<br><b>田 上 恭 子</b>                                         |                                                                                                                         |                                                     |
| 3月29日(日) 〃                    |                                                                    |                                                                                                                         |                                                     |

|                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                      |                                |               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|---------------|
|                                                                                                         | 医学部附属病院<br>看護師<br>桜庭 咲子<br>管理栄養士<br>三上 恵理                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                      |                                |               |
| <b>生体応答科学研究セミナー</b><br><b>「テレパソロジーの有用性と緊急時の対応」</b><br><br>6月18日（水）<br><br>時間 13：15～14：15                | 日本テレパソロジー・バーチャルマイクロコピー研究会 会長<br>土橋 康成                                                                                                                                                                                   | 緊急被ばく医療と病理診断の共通性、テレパソロジーの確立及びテレパソロジーおよび病理診断システムの進化について講演する。                                                                                                                                                          |                                | 大学院保健学研究科     |
|                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                         | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                               | 主 催                            | 受講者           |
|                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                         | 教職員、学生<br>無料                                                                                                                                                                                                         | 保健学研究科<br>生体応答科学研究センター         | 20名           |
| <b>第10回青森継続看護研究集会</b><br><b>「介護家族のメンタルヘルスについて考えるーみんなで支え合うためにー」</b><br><br>6月21日（土）<br><br>10：00～15：15   | 講演：<br>青森県立保健大学教授<br>大山 博史<br><br>シンポジウム：<br>青森県健康福祉部健康福祉政策課<br>梅庭 牧子<br><br>認知症の人と家族の会青森県支部準備会代表世話人<br>石戸 育子<br><br>八戸医療生活協同組合生協訪問看護ステーション<br>寺地 栄<br><br>青森県健康福祉部障害福祉課<br>野宮 富子<br><br>医療法人ときわ会ときわ会病院地域医療連携室<br>常田 大輝 | 午前中の教育講演は、「地域介入による うつ・自殺予防」をテーマに、自殺予防への取り組みに関する講演です。<br>午後のシンポジウムは、「介護家族のメンタルヘルスについて考えるーみんなで支え合うためにー」と題し、梅庭牧子氏をコーディネーターに、各シンポジストからは「介護する家族の立場から」、「訪問看護師の立場から」、「行政の立場から」、「社会福祉士、精神保健福祉士の立場から」それぞれの現状と課題について話題が提供されます。 |                                | 青森県武道館<br>会議室 |
|                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                         | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                               | 主 催                            | 受講者           |
|                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                         | 保健医療福祉現職者会員（無料）<br><br>非会員の現職者（2,500円）<br>一般（無料）<br>学生（500円）                                                                                                                                                         | 保健学研究科<br>すこやかコミュニティ支援センター（共催） | 79名           |
|                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                      |                                |               |
| <b>生体応答科学研究セミナー</b><br><b>「腫瘍細胞における抗アポトーシスタンパク質を標的とした放射線増感作用」</b><br><br>6月30日（月）<br><br>時間 18：00～19：00 | 北海道大学獣医学研究科 教授<br>稲波 修                                                                                                                                                                                                  | 腫瘍細胞における最新の基礎的研究成果を、アポトーシス関連タンパクの発現ネットワークを基に講演する。                                                                                                                                                                    |                                | 大学院保健学研究科     |
|                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                         | 対象・参加費                                                                                                                                                                                                               | 主 催                            | 受講者           |
|                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                         | 教職員、学生<br>無料                                                                                                                                                                                                         | 保健学研究科<br>生体応答科学研究センター         | 40名           |

| 名称・開催日                                                                                                   | 講 師                                                                                                                                                                                                       | 内 容                                                                                                                                                                |                            | 会 場       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-----------|
| <b>生体応答科学研究セミナー</b><br><b>「非相同末端結合 (NHEJ) によるDNA修復とMDC1との関わり」</b><br><br>7月18日 (金)<br><br>時間 17:30～19:00 | (独)放射線医学総合研究所<br>主任研究員<br><b>小野田 眞</b>                                                                                                                                                                    | 全生物がもつ細胞核内DNAの損傷により、DNA鎖切断が生じるが、我々生物はそれらを修復する機構もっており、本講座では最新のDNA修復メカニズムについて講演する。                                                                                   |                            | 大学院保健学研究科 |
|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                           | 対象・参加費                                                                                                                                                             | 主 催                        | 受講者       |
|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                           | 教職員、学生<br>無料                                                                                                                                                       | 保健学研究科<br>生体応答科学研究センター     | 40名       |
| <b>公開講座</b><br><b>「転倒しない・させないための1日転倒予防教室」</b><br><br>9月12日 (金)<br><br>時間 9:30～16:00                      | 大学院保健学研究科教授<br><b>對馬 均</b><br><b>若山 佐一</b><br><b>岩田 学</b><br><br>准教授<br><b>石川 玲</b><br><b>尾田 敦</b><br><b>對馬 栄輝</b><br><br>助教<br><b>吉田 英樹</b><br><b>成田 大 一</b><br><br>助手<br><b>赤池 あらた</b><br><b>藤田 俊 文</b> | 高齢者の転倒は、時として重症な骨折の誘因となります。また骨折まで至らなくても、転倒恐怖感により、活動性の低下や引きこもりといった転倒後症候群を引き起こすことから、大きな社会問題となっています。そこで高齢者自身や高齢者の転倒に関心がある人を対象として、転倒の発生を予防することを目的に、講義と実習からなる公開講座を開催します。 |                            | 大学院保健学研究科 |
|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                           | 対象・参加費                                                                                                                                                             | 主 催                        | 受講者       |
|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                           | 一般（高齢者自身・高齢者の転倒に関心のある人）<br><br>2,500円                                                                                                                              | 保健学研究科                     | 28名       |
|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                    |                            |           |
| <b>セミナー</b><br><b>「患者・家族指導のスキルを高める」</b><br><br>10月16日 (木)<br><br>時間 17:30～19:00                          | 黎明郷弘前脳卒中センター 看護師<br><b>成田 克子</b><br><br>弘前市立病院<br>看護師<br><b>小岩 郁子</b><br><br>医学部附属病院<br>看護師<br><b>桜庭 咲子</b>                                                                                               | (1) 各医療機関が実施している患者・家族指導の実践例を紹介し、他医療機関と指導方法や具体的関わりについて情報交換・意見交換をする。<br>(2) 患者の行動変容を手助けするための効果的な患者指導スキルの向上を目指し、継続して今後も活動を行うための患者指導に関するネットワークを構築する。                   |                            | 大学院保健学研究科 |
|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                           | 対象・参加費                                                                                                                                                             | 主 催                        | 受講者       |
|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                           | 看護職者、看護学生<br>無料                                                                                                                                                    | 保健学研究科<br>看護職者の教育力開発支援センター | 33名       |



| 名称・開催日                                                                                                                                   | 講 師                                                                                            | 内 容                                                                                                                                     |                              | 会 場       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-----------|
| <b>弘前大学総合文化祭<br/>「知の創造」市民講座<br/>「磁気科学の未来～環境と健康、そして宇宙～」</b><br><br>10月24日（金）<br><br>時間 18：00～19：30                                        | 大学院保健学研究科<br>教授<br><b>宮 越 順 二</b>                                                              | 最新の磁気科学技術の成果を環境や健康分野を中心として紹介し、さらに未来の宇宙開発に関連した磁気科学についても触れます。                                                                             |                              | 弘前駅前市民ホール |
|                                                                                                                                          |                                                                                                | 対象・参加費                                                                                                                                  | 主 催                          | 受講者       |
|                                                                                                                                          |                                                                                                | 一般市民、中高生<br>無料                                                                                                                          | 弘前大学                         | 100名      |
| <b>生体応答科学研究セミナー<br/>「ダウン症関連白血病細胞の増殖におけるシグナリング伝達系分子の機能について」</b><br><br>10月30日（木）<br><br>時間 18：00～19：00                                    | 大学院医学研究科<br>小児科学講座<br>講師<br><b>土 岐 力</b>                                                       | 先天性遺伝子疾患の一つである小児ダウン症の白血病細胞の挙動について、最新の分子生物学的知見について講演する。                                                                                  |                              | 大学院保健学研究科 |
|                                                                                                                                          |                                                                                                | 対象・参加費                                                                                                                                  | 主 催                          | 受講者       |
|                                                                                                                                          |                                                                                                | 教職員、学生<br>無料                                                                                                                            | 保健学研究科<br>生体応答科学研究センター       | 50名       |
| <b>青森継続看護研究会<br/>第4回学習会<br/>「がん経験者による支え合いー今、ピアカウンセリングに注目」</b><br><br>11月15日（土）<br><br>時間 13：00～15：00                                     | NPO 法人がん患者<br>団体支援機構理事<br><b>古 山 恵 子</b><br><br>十和田市立中央病院<br>相談員<br><b>新 谷 明 子</b>             | 先輩患者さんが相談にのる「ピアカウンセリング」が患者団体や医療施設で広がっています。そこで、東京都の委託を受けて病院内でピアカウンセリングを行っている古山氏、県内の病院でピア相談を受けいれている新谷氏のお二人をお迎えして、活動の経緯、課題等についての話題が提供されます。 |                              | 青森県立保健大学  |
|                                                                                                                                          |                                                                                                | 対象・参加費                                                                                                                                  | 主 催                          | 受講者       |
|                                                                                                                                          |                                                                                                | 保健医療福祉<br>現職者会員<br>非会員の現職者<br>一般<br>無料                                                                                                  | 保健学研究科<br>すこやかコミュニティ<br>(共催) | 41名       |
| <b>生体応答科学研究セミナー<br/>「精巢セルトリ細胞の分化や細胞死の過程に関与する遺伝子ネットワークの解析」<br/>「トランスクリプトーム解析のための網羅的遺伝子発現解析法の原理」</b><br><br>1月16日（金）<br><br>時間 17：30～19：00 | 富山大学生命科学先端研究センター<br>遺伝子実験施設長<br><b>田 淵 圭 章</b><br><br>富山大学生命科学先端研究センター<br>助教<br><b>高 崎 一 朗</b> | 最新の遺伝子解析手法の一つであるDNAマイクロアレイを用いて、遺伝子ネットワーク解析の有用性を紹介する。                                                                                    |                              | 大学院保健学研究科 |
|                                                                                                                                          |                                                                                                | 対象・参加費                                                                                                                                  | 主 催                          | 受講者       |
|                                                                                                                                          |                                                                                                | 教職員、学生<br>無料                                                                                                                            | 保健学研究科<br>生体応答科学研究センター       | 30名       |

| 名称・開催日                                                                                         | 講 師                                                                      | 内 容                                                                     |                            | 会 場       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-----------|
| <b>生体応答科学研究セミナー</b><br><b>「T細胞の抗原認識とcoreceptor」</b><br><br>1月30日（金）<br><br>時間 18：00～19：30      | 北里大学医学部<br>教授<br>篠 原 信 賢                                                 | 人類がもつ免疫システムについて、最新の知見と共に紹介し、講演する。                                       |                            | 大学院保健学研究科 |
|                                                                                                |                                                                          | 対象・参加費                                                                  | 主 催                        | 受講者       |
|                                                                                                |                                                                          | 教職員、学生<br>無料                                                            | 保健学研究科<br>生体応答科学研究センター     | 70名       |
| <b>生体応答科学研究セミナー</b><br><b>「放射線被ばくによる発がんとそのメカニズムについて」</b><br><br>2月27日（金）<br><br>時間 18：00～19：00 | 広島大学原爆放射線<br>医科学研究所<br>助教<br>飯 塚 大 輔                                     | 放射線に曝された細胞ががん化するまでに、関連する様々な細胞内タンパクの発現及びそれらの情報伝達についてを最新の知見について講演する。      |                            | 大学院保健学研究科 |
|                                                                                                |                                                                          | 対象・参加費                                                                  | 主 催                        | 受講者       |
|                                                                                                |                                                                          | 教職員、学生<br>無料                                                            | 保健学研究科<br>生体応答科学研究センター     | 30名       |
| <b>セミナー</b><br><b>「産科領域における保健指導」</b><br><br>3月10日（火）<br><br>時間 17：30～19：00                     | 国立病院機構弘前病院<br>助産師<br>長 尾 愛 佳<br>三 浦 初 枝<br><br>医学部附属病院<br>助産師<br>工 藤 優 子 | 各医療機関が実施している患者指導（母親学級）の実践例を紹介し、患者の行動変容や健康行動を促進（手助け）するための患者指導スキルの向上をめざす。 |                            | 大学院保健学研究科 |
|                                                                                                |                                                                          | 対象・参加費                                                                  | 主 催                        | 受講者       |
|                                                                                                |                                                                          | 看護職者、看護学生等関心のある方<br>無料                                                  | 保健学研究科<br>看護職者の教育力開発支援センター | 41名       |

#### (5) 医学部附属病院

| 名称・開催日                                                               | 講 師                                                                                                                      | 内 容                                                     |                 | 会 場           |
|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------|---------------|
| <b>第2回弘大病院がん診療市民公開講座</b><br><br>平成20年11月21日（金）<br><br>時間 18：00～20：00 | 附属病院病理部長 教授<br>鬼 島 宏<br>附属病院小児外科科長 教授<br>棟 方 博 文<br>附属病院消化器内科・血液内科・膠原病内科科長 教授<br>福 田 眞 作<br>大学院医学研究科社会医学講座 教授<br>中 路 重 之 | 附属病院における最新のがん診療を市民に知ってもらう。<br><br>テーマ<br>「がんの一次予防と二次予防」 |                 | 弘前文化センター 大ホール |
|                                                                      |                                                                                                                          | 対象・参加費                                                  | 主 催             | 受講者           |
|                                                                      |                                                                                                                          | 一般<br>無料                                                | 附属病院腫瘍センター運営委員会 | 70名           |

| 名称・開催日                                                                                                                                                                       | 講 師                                                                                                                                                                                                                | 内 容                                                                                                                       |          | 会 場                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|--------------------|
| <b>2008八戸市市民公開講座<br/>「心の健康教室」</b><br><br>10月5日（日）<br>第1部<br>「うつを理解して心の健康をとりもどそう！－思春期から成人のうつ病など－」<br><br>第2部<br>「ストレス・うつを解消するQ&A－八戸の精神科医が皆様の疑問にお答えします－」<br><br>時間 14：00～16：00 | 医学部附属病院神経科精神科 講師<br><b>栗 林 理 人</b><br><br>パネリスト：<br><br>松平病院<br><b>横 田 浩</b><br><br>湊病院<br><b>工 藤 清次郎</b><br><br>ささクリニック<br><b>笹 博</b><br><br>八戸マナクリニック<br><b>岡 田 元</b>                                            | 「夜眠れない、疲れやすい、肩コリが直らない、家事や仕事が手につかない」このような症状はうつ病の始まりかもしれません。うつは早期発見、適切な治療により完治する病気です。ご興味のある方、ご家族の方、ご友人、職場の方どなたでもお気軽にご参加下さい！ |          | 八戸ユートリー（8階）、中ホール   |
|                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                    | 対象・参加費                                                                                                                    | 主 催      | 受講者                |
|                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                    | 一般市民<br>無料                                                                                                                | 神経精神医学講座 | 約200名              |
|                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                           |          |                    |
| <b>第6回弘前市市民公開講座<br/>「こころの健康教室」</b><br><br>10月26日（日）<br><br>特別講演「うつに負けず元気に暮らす－不眠・不安の対処法をやさしくお話しします－」<br><br>パネル質問コーナー「ストレス・うつのQ&A－精神科医が気になる疑問に答えます！－」<br><br>時間 14：00～16：00   | 秋田大学医学部精神科学分野 教授<br><b>清 水 徹 男</b><br><br>パネリスト：<br><br>弘前愛成会病院<br><b>田 崎 博 一</b><br><br>下田クリニック<br><b>下 田 肇</b><br><br>藤代健生病院<br><b>牧 口 幸 一</b><br><br>満天クリニック<br><b>八木橋 典 子</b><br><br>秋田大学医学部<br><b>清 水 徹 男</b> | 「イライラする、気分が落ち込む、何をしても楽しくない」「夜眠れない、疲れやすい、肩コリが治らない、家事や仕事が手につかない」このような症状はうつ病のはじまりかもしれません。お気軽にご参加ください！                        |          | ホテルニューキャッスル（2階）「曙」 |
|                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                    | 対象・参加費                                                                                                                    | 主 催      | 受講者                |
|                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                    | 一般市民                                                                                                                      | 神経精神医学講座 | 約200名              |
|                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                           |          |                    |

# (6) 大学院理工学研究科

| 名称・開催日                                                                                                                                                             | 講 師                                                                                                                                                                                         | 内 容                                                                                                                                                                   |                                | 会 場            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|----------------|
| <b>日本化学会青森地区講演会</b><br><b>「大学と地域の交流を<br/>深める化学プラザ」</b><br><br>11月28日（金）<br>「 $\pi$ 電子豊富分子の科学」<br><br>「液晶とフレキシブルディスプレイ」<br><br>「共役系化合物のまげわっぱ」<br><br>時間 14：00～17：30 | 東北大学大学院理学研究科<br><b>磯 部 寛 之</b><br><br>NHK放送技術研究所<br><b>藤 掛 英 夫</b><br><br>兵庫県立大学大学院工学研究科<br><b>川 瀬 毅</b>                                                                                    | 科学関連の講演3件と懇親会                                                                                                                                                         |                                | 大学院理工学研究科      |
|                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                             | 対象・参加費                                                                                                                                                                | 主 催                            | 受講者            |
|                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                             | 一般、学生<br>講演会参加費無料<br>懇親会参加費一般<br>4,000円<br>学生<br>1,500円                                                                                                               | 日本化学会東北支部・理工学研究科附属分子材料化学研究センター | 97名            |
| <b>化学への招待</b><br><b>「一日体験化学教室<br/>～身の回りの化学～」</b><br><br>8月4日（月）<br><br>時間 10：00～16：30                                                                              | 青森県工業総合研究センター<br>総括研究管理員<br><b>市 田 淳 治</b><br><br>大学院理工学研究科准教授<br><b>長 岐 正 彦</b><br><br>大学院理工学研究科准教授<br><b>喜 多 昭 一</b><br><br>大学院理工学研究科助教<br><b>川 上 淳</b><br><br>教育学部 准教授<br><b>長 南 幸 安</b> | 午前中は講演を聞き、午後<br>は A-Dに分かれて化学実験<br>を体験する<br><br>1. 講演<br><br>2. 実験<br>A) 自然を模倣する～森林浴<br>の化学～<br>B) 光学活性って何？～分子<br>の右と左～<br>C) 果物のにおいを作る・ル<br>ミノールを用いた発光反<br>応<br>D) 実験 |                                | 大学院理工学研究科、教育学部 |
|                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                             | 対象・参加費                                                                                                                                                                | 主 催                            | 受講者            |
|                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                             | 高校生（中学生・一般も可）<br>無料                                                                                                                                                   | 日本化学会東北支部                      | 79名            |
| <b>楽しい科学</b><br><br>10月26日（日）<br><br>時間 10：00～16：00                                                                                                                | 教員                                                                                                                                                                                          | 大学の教育機能や施設を広く一般に開放し、インターネットや簡単な科学実験を体験してもらいます。                                                                                                                        |                                | 大学院理工学研究科      |
|                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                             | 対象・参加費                                                                                                                                                                | 主 催                            | 受講者            |
|                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                             | 小学生、中学生とその父母<br>無料                                                                                                                                                    | 理工学部                           | 600名           |

| 名称・開催日                                                                                       | 講 師                                                           | 内 容                                                                                                              | 会 場               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| <b>サイエンスへの招待</b><br>10月26日（日）<br>時間 10：00～16：00                                              | 教員                                                            | 大学の研究室や各種実験装置を公開し、教員や大学院生らが日頃の研究成果や最新の科学技術を公開実験を中心に紹介・解説することにより「見える科学・技術」を紹介・解説するものです。                           | 大学院理工学研究科         |
|                                                                                              |                                                               | 対象・参加費                                                                                                           | 主 催 受講者           |
|                                                                                              |                                                               | 小学生、中学生、高校生、一般<br>無料                                                                                             | 大学院理工学研究科<br>600名 |
| <b>公開講座<br/>「夏休みの数学2008」</b><br>8月4日（月）<br>ケプラーの卵<br>8月5日（火）<br>黄金比と正5角形の話<br>時間 10：30～15：00 | 大学院理工学研究科教授<br><b>中 里 博</b><br>大学院理工学研究科准教授<br><b>永 瀬 範 明</b> | 中学校や高等学校の数学の教科書にでてくる数学の世界のすぐ近くに、より深く面白い話題がたくさんあります。そのような数学の魅力の一端を高校生や一般の方に知ってもらうための企画です。<br>（2日間のうち1日のみの参加も可能です） | 大学院理工学研究科         |
|                                                                                              |                                                               | 対象・参加費                                                                                                           | 主 催 受講者           |
|                                                                                              |                                                               | 一般、中・高校教員、高校生<br>無料                                                                                              | 大学院理工学研究科<br>21名  |

#### (7) 農学生命科学部・農学生命科学部附属生物共生教育研究センター

| 名称・開催日                                                                          | 講 師                                                                                  | 内 容                                                                                                                                                                                                     | 会 場            |
|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| <b>農学生命科学部公開講座<br/>「世界のとうがらしと<br/>清水森ナンバの魅力」</b><br>10月26日（日）<br>時間 10：00～13：00 | 在来津軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会会員（前農学生命科学部教授）<br><b>嵯 峨 紘 一</b><br>農学生命科学部教授<br><b>澁 谷 長 生</b> | 青森県の城下町弘前市の周辺に特有の「弘前在来」トウガラシは、約400年前に、弘前藩の藩祖、津軽為信公が京都から持ち帰って広めたと伝えられています。<br>平成9年、弘前大学の嵯峨教授（当時）がその栄養性を高く評価し、地域の勉強会で講演したことをきっかけに、自家採取により特有の形と味を細々と維持していた農家から種子を譲り受け、産学官連携により商品名を在来津軽「清水森ナンバ」として復興を図りました。 | 農学生命科学部・302講義室 |



|                                                                                                                    |                                                            |                                                                                                                                                            |                                     |       |                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------|------------------------------------|
|                                                                                                                    | 農学生命科学部<br>准教授<br>石 川 隆 二<br><br>農学生命科学部<br>准教授<br>本 多 和 茂 | 今回の講座は、「清水森ナンバ」並びに「とうがらし」の魅力について大学及び「清水森ナンバ」ブランド確立研究会が共催で大いに語り合う企画です。加えて「ナンバ」の試食も合わせて行います。尚、この「ナンバ」復興の取り組みは農林水産省産学官農の連携全国5モデルの1つに認定されております。                |                                     |       |                                    |
|                                                                                                                    |                                                            | 対象・参加費                                                                                                                                                     | 主 催                                 | 受講生   |                                    |
|                                                                                                                    |                                                            | 一般<br>無料                                                                                                                                                   | 農学生命科学部地域連携推進室在来津軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会 | 80名   |                                    |
| <b>公開講座</b><br><b>「リンゴを科学する」</b><br><br>12月7日（日）<br>時間 9：00～16：10<br><br>12月8日（月）<br>時間 10：00～16：30                | 農学生命科学部<br>准教授<br>伊 藤 大 雄<br>他5名程度                         | リンゴの栽培方式、剪定と品種の反応、栽培と気象、果実の生理、樹体の生理、病害虫防除、土壌と施肥量・方法、品種、販売方法、果実の活用方法、外国のリンゴ事情 etc.                                                                          |                                     |       | 板柳町多目的ホール「あぷる」                     |
|                                                                                                                    |                                                            | 対象・参加費                                                                                                                                                     | 主 催                                 | 受講生   |                                    |
|                                                                                                                    |                                                            | リンゴ農家及びその関係者<br>700円<br>（ただし、テキスト代として）                                                                                                                     | 農学生命科学部附属生物共生教育研究センター<br>藤崎農場・板柳町   | 80名   |                                    |
| <b>親子体験学習</b><br><b>「触れ合おう、人と自然と農業に」</b><br><br>5月24日（土）<br>6月21日（土）<br>9月27日（土）<br>10月18日（土）<br><br>時間 9：30～15：30 | 農学生命科学部<br>教職員ほか                                           | メダカが棲む金木農場で、親子が一緒になって多くの野生生物を観察しながら、田植えから稲刈り、精米して白米にするまでのコメ作りを学ぶ。羊の毛刈り体験、藍染めやワラぼうり作りを学ぶ機会もある。また、藤崎農場でリンゴの摘果、収穫体験を併せて行う。県下から広く参加者を募り、学区及び学年間の交流を深めるのも目的である。 |                                     |       | 農学生命科学部附属生物共生教育研究センター<br>金木農場・藤崎農場 |
|                                                                                                                    |                                                            | 対象・参加費                                                                                                                                                     | 主 催                                 | 受講者   |                                    |
|                                                                                                                    |                                                            | 一般<br>大学教職員<br>学生<br><br>無料                                                                                                                                | 農学生命科学部附属生物共生教育研究センター<br>金木農場       | 計197名 |                                    |

## (8) 附属図書館

| 名称・開催日                                            | 講 師                               | 内 容                                                                                        |       | 会 場                    |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------|
| <b>第5回学術講演会</b><br><br>10月25日（土）<br>『江戸城大奥と天璋院篤姫』 | 東京大学史料編纂所<br>教授<br><b>山 本 博 文</b> | 日本近世史の研究者で、江戸時代の歴史・文化について多数の著作のある東京大学史料編纂所の山本博文教授を招聘し、江戸城大奥のしくみや天璋院篤姫の生涯と時代背景について講演会を実施した。 |       | 弘前大学創立50周年記念会館 みちのくホール |
|                                                   |                                   | 対象・参加費                                                                                     | 主 催   | 受講者                    |
|                                                   |                                   | 一般市民、弘前大学学生・教職員<br><br>無料                                                                  | 附属図書館 | 409名                   |

## (9) 遺伝子実験施設

| 名称・開催日                                                                                                                                                                         | 講 師                                                                                                                     | 内 容                                          |         | 会 場                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|---------|------------------------------------------|
| <b>遺伝子実験施設セミナー</b><br><br>第63回 9月11日（木）<br>「植物の寒冷ストレス適応分子機構：凍結耐性と細胞膜」<br><br>第64回 9月17日（水）<br>「RNAエンベロープウイルスの出芽と細胞質分裂」<br><br>第65回 9月29日（月）<br>「アミノ酸のホモキラリティーの起源：RNAワールドの立場から」 | 岩手大学農学部附属寒冷バイオフィロニティア研究センター<br><b>上 村 松 生</b><br><br>大阪大学微生物病研究所<br><b>森 田 英 嗣</b><br><br>東京理科大学基礎工学部<br><b>田 村 浩 二</b> | 全国から来校した研究者や県内各地の研究者の研究成果に基づいた講演を行い、研究交流を行う。 |         | 農学生命科学部講義室<br>遺伝子実験施設セミナー室<br>農学生命科学部会議室 |
|                                                                                                                                                                                |                                                                                                                         | 対象・参加費                                       | 主 催     | 受講者                                      |
|                                                                                                                                                                                |                                                                                                                         | 一般、大学教職員、学生<br><br>無料                        | 遺伝子実験施設 | 延べ180名                                   |

| 名称・開催日                                                                                                                                                                                                                                         | 講 師                                                                                                                                                                         | 内 容                                                                                                                                           | 会 場                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| <b>遺伝子実験施設<br/>シンポジウム</b><br><br>第15回 11月27日（木）<br><br>「phtRNAによるRNA silencing発動について」<br><br>「植物の耐湿性獲得メカニズムの解明－イネが水田で育つ理由を探る」<br><br>「IFN-ε：女性生殖器特異的に発現する新しいI型インターフェロン」<br><br>「臨床検査における非翻訳RNAの試み」<br><br>「植物棲息微生物の新機能：生物防除、アルカロイド分解、カビ毒分解能など」 | 農学生命科学部<br><b>葛 西 厚 史</b><br><br>東京大学大学院農学生命科学研究科<br><b>中 園 幹 生</b><br><br>大学院医学研究科<br><b>松 宮 朋 穂</b><br><br>大学院保健学研究科<br><b>三 浦 富 智</b><br><br>農業環境技術研究所<br><b>對 馬 誠 也</b> | 主として、分子生物学・生化学の分野における最先端の研究に携わる研究者に講演を依頼し、また、本学における医学、農学、基礎生物学分野の遺伝子研究を数人の教員が紹介する。これにより、全国の研究者和との研究交流を図るとともに、学内における学部横断的な研究交流を推進することを目的としている。 | 弘前大学<br>創立50周年記念会館 |
|                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                             | 対象・参加費                                                                                                                                        | 主 催                |
|                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                             | 一般、大学教職員、学生                                                                                                                                   | 遺伝子実験施設            |
|                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                             | 無料                                                                                                                                            | 約100名              |

#### （10）総合情報処理センター

| 名 称・開 催 日                                                                                                    | 講 師                                 | 内 容                                                            | 会 場                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------|---------------------------|
| <b>公開講座</b><br><b>「大改造!!写真で<br/>ビフォーアフター」</b><br><b>ーデジカメ写真を編集しようー</b><br><br>11月8日（土）<br><br>時間 13：30～16：00 | 総合情報処理センター<br>准教授<br><b>佐 藤 友 暁</b> | フリーソフト（無料で配布されているソフトウェア）であるGIMPを使用して、デジタルカメラで撮影した写真の編集技術を学びます。 | 総合情報処理<br>センター            |
|                                                                                                              |                                     | 対象・参加費                                                         | 主 催                       |
|                                                                                                              |                                     | 小学校高学年以上<br><br>無料                                             | 総合情報処理<br>センター<br><br>28名 |

### Ⅲ. センター関連規則等

## 1. センター関連規則

### (1) 弘前大学生涯学習教育研究センター規程

(平成16年4月1日制定)  
(規定第144号)

(趣旨)

**第1条** この規程は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号。以下「管理運営規則」という。）第6条第2項の規定に基づき、弘前大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

**第2条** センターは、学内共同教育研究施設として、生涯学習に関する教育（医学及び保健に関することを含む。）及び研究を行い、弘前大学（以下「本学」という。）の教育研究の進展と地域における生涯学習の振興に資することを目的とする。

(業務)

**第3条** センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 生涯学習に関する教育内容・方法の研究
- (2) 社会人を対象とする公開講座等の生涯学習事業の実施
- (3) 生涯学習指導者の養成
- (4) 生涯学習に関する情報の収集及び提供
- (5) 生涯学習に関する相談事業
- (6) 生涯学習に関する調査・研究報告書等の刊行
- (7) メディカルコミュニケーションセンターの業務に関すること。
- (8) その他生涯学習に関すること。

(職員)

**第4条** センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

(センター長の選考等)

**第5条** センター長は、本学の教授をもって充てる。

2 センター長の選考は、管理運営規則第52条に定める教育研究評議会の推薦に基づき、学長が行う。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 センター長は、センターの業務を掌理する。

(専任教員の選考)

**第6条** センターの専任教員の選考は、教育研究評議会の議に基づき、学長が行う。

(センター協力教員)

**第7条** センターに、センターが行う事業を円滑に実施するため、センター協力教員を置くことができる。

2 センター協力教員の任期は、担当する業務が終了するまでの期間とする。



3 センター協力教員は、学長が任命する。

(運営委員会)

**第8条** センターの管理運営に関する事項を審議するため、弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

**第9条** センターの事務は、学術情報部社会連携課において処理する。

(その他)

**第10条** この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

#### 附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成16年10月1日から施行する。

(2) 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会内規

(平成16年4月1日)  
制 定

(趣旨)

**第1条** この内規は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号）第95条及び弘前大学生涯学習教育研究センター規程第8条の規定に基づき、弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

**第2条** 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの専任教員
- (3) 各部局から推薦された教員各1名。
- (4) 学長が指名する教員以外の職員1名
- (5) その他委員長が必要と認めた職員

2 前項第3号の委員は、学長が任命する。

(委員の任期)

**第3条** 前条第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

**第4条** 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

3 運営委員会に副委員長を置き、委員長が指名する委員をもって充てる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

**第5条** 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員の代理出席)

**第6条** 委員に事故があるときは、当該委員の指名した者が委員として代理出席することができる。

(委員以外の出席)

**第7条** 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

**第8条** 運営委員会に専門的事項を調査し、又は企画、立案若しくは実施をするため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の名称、組織及び運営については、運営委員会が別に定める。

(庶務)

**第9条** 運営委員会の庶務は、学術情報部社会連携課において処理する。

(その他)

**第10条** この内規に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

**附 則**

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

**附 則**

この内規は、平成16年10月1日から施行する。

**附 則**

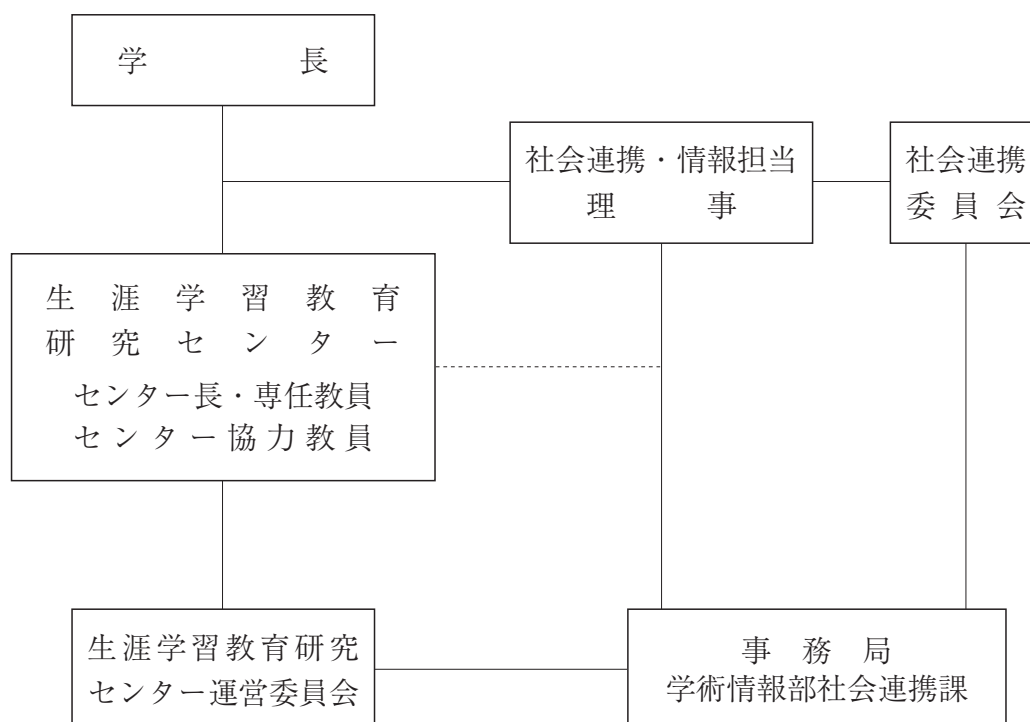
この内規は、平成17年10月28日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

**附 則**

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

## 2. 機構・組織

センターの運営は、各部局から推薦された委員，学長が指名する教員以外の職員1名，センター長並びに専任教員が構成員となった「弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会」で，全学的な視野から検討されることになっています。



### ○生涯学習教育研究センター運営委員会

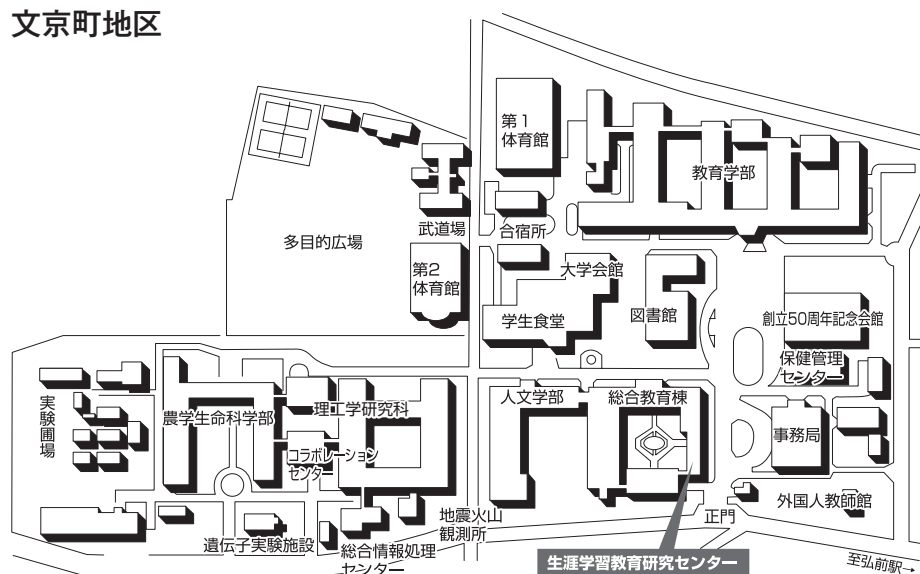
|              |     |         |
|--------------|-----|---------|
| 生涯学習教育研究センター | 教授  | 浅 野 清   |
| 生涯学習教育研究センター | 准教授 | 菅 世智子   |
| 生涯学習教育研究センター | 准教授 | 藤 田 昇 治 |
| 人文学部         | 准教授 | 宮 坂 朋   |
| 教育学部         | 教授  | 佐 藤 三 三 |
| 医学研究科        | 教授  | 大 山 力   |
| 保健学研究科       | 准教授 | 武 尾 照 子 |
| 理工学研究科       | 准教授 | 浅 田 秀 樹 |
| 農学生命科学部      | 准教授 | 田 中 和 明 |
| 学術情報部社会連携課   | 課長  | 新 谷 哲 雄 |

### ○センター協力教員

|      |     |                             |
|------|-----|-----------------------------|
| 人文学部 | 准教授 | 森 樹 男 (20. 4. 1～21. 3.31)   |
| 教育学部 | 教授  | 吉 田 孝 (20. 6.15～21. 3.31)   |
| 教育学部 | 准教授 | 杉 原 かおり (20. 6.15～21. 3.31) |

### 3. 地図・連絡先

#### 文京町地区



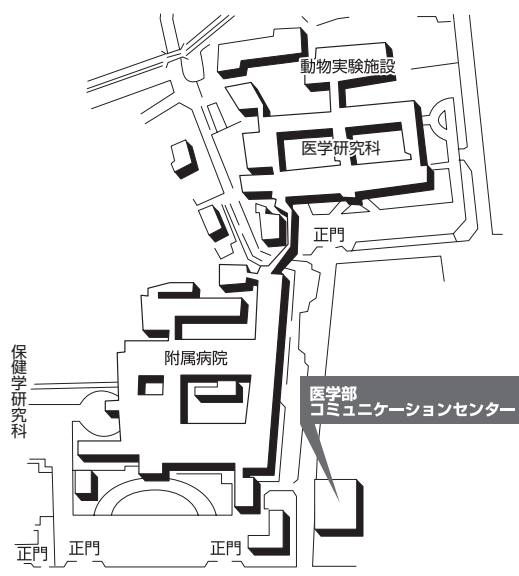
#### 弘前大学生涯学習教育研究センター

〒036-8560 弘前市文京町1番地

T E L (0172) 39-3148 〈直通〉

F A X (0172) 39-3148

#### 本町地区



#### 分室(医学部コミュニケーションセンター)

〒036-8203 弘前市本町40-1

T E L (0172) 39-5240 〈直通〉

F A X (0172) 39-4056

事務局 学術情報部社会連携課社会連携グループ

〒036-8560 弘前市文京町1番地

T E L (0172) 39-3904, 3910

F A X (0172) 39-3919



## 編 集 後 記

昨年秋以降の世界同時不況の影響が、様々な形で現れています。産業基盤が脆弱な青森県では、完全失業率が高く、景気の回復の遅れが顕著です。だからこそ、企業・行政・市民活動などの様々な場面で活躍できる、「有能な人材の育成」が課題である、ということになるでしょう。

今回の『年報』でも、「キャリア教育」をテーマとした論文が掲載されていますが、今後生涯学習の領域でも、「キャリア教育」に関連した事業の充実が求められていると思います。

この3月31日付で、これまでセンターの専任教員であった菅先生が退官され、4月からは新たに深作先生を迎えることになりました。7月には新築される建物にセンターが引っ越しすることが予定されています。新たな条件の下、新たな気分で新年度をスタートさせたいと思います（文責：藤田）。

---

---

発行 平成 22 年 3 月 31 日

### 弘前大学生涯学習教育研究センター 年報 第 12 号

発行 弘前大学生涯学習教育研究センター

〒036-8560 弘前市文京町 1 番地

☎ (0172) 39-3148

印刷 や ま と 印 刷 株 式 会 社

〒036-8061 弘前市神田 4 丁目 4 - 5

☎ (0172) 34-4111

---

---

ANNUAL REPORT  
CENTER FOR RESEARCH AND EDUCATION OF LIFELONG LEARNING  
HIROSAKI UNIVERSITY  
NO.12, 2009

---

CONTENTS

Academic Articles

|                                                 |                     |
|-------------------------------------------------|---------------------|
| Viewing Education of Career and Open University |                     |
|                                                 | FUJITA Shoji .....1 |

|                                    |                         |
|------------------------------------|-------------------------|
| Railway Songs and Tsugaru District |                         |
|                                    | YOSHIDA Takashi .....13 |

|                                                  |                       |
|--------------------------------------------------|-----------------------|
| Considering What Needed are for Young People Now |                       |
|                                                  | SAKAMOTO Toru .....23 |

|                                                                          |         |
|--------------------------------------------------------------------------|---------|
| Activity Reports: Center for Research and Education of Lifelong Learning | .....35 |
|--------------------------------------------------------------------------|---------|

|                                                 |         |
|-------------------------------------------------|---------|
| The Faculties and Other On-campus Organizations | .....45 |
|-------------------------------------------------|---------|

|                        |         |
|------------------------|---------|
| Rules and Organization | .....61 |
|------------------------|---------|

---